本文 7121 号

官報　第七千百二十一號　明治四十年三月二十九日　金曜日　印刷局

○法律

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル韓國森林特別會計法ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治四十年三月二十八日

内閣總理大臣　侯爵西園寺公望
法學博士　大藏大臣　阪谷芳郎

法律第二十四號

韓國森林特別會計法

第一條　鴨綠江及豆滿江沿岸森林ヲ經營スル爲特別會計ヲ設置シ其ノ事業上ノ收入ヲ以テ其ノ支出ニ充テシム

第二條　韓國森林特別會計ノ資本額ハ百二十萬圓トシ其ノ半額ハ韓國政府ノ分擔金ヲ以テ之ニ充ツ

前項資本金ハ必要ニ應シ漸次一般會計ヨリ繰入シ又ハ韓國政府ヨリ受入シム但シ事業用物件ヲ以テ出資額ニ充ツルコトヲ得

第三條　每年度事業上ノ損益ハ前條出資額ニ應シ之ヲ一般會計及韓國政府ニ分配ス

第四條　政府ハ每年韓國森林特別會計歲入歲出豫算ヲ調製シ歲入歲出ノ總豫算ト俱ニ之ヲ帝國議會ニ提出スヘシ

第五條　每年度ノ豫算ニハ災害事變其ノ他豫期セサル歲出ノ不足ニ應スル爲豫備費ヲ設クヘシ

第六條　本會計ノ事業ハ事宜ニ依リ森林經營ヲ目的トスル會社ニ委託シテ之ヲ經營スルコトヲ得

第七條　本會計ノ收入支出ニ關スル規程ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附　則

本法ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル樺太ニ施行スヘキ法令ニ關スル法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治四十年三月二十八日

内閣總理大臣　侯爵西園寺公望
司法大臣　松田正久
内務大臣　原敬

法律第二十五號

法律ノ全部又ハ一部ヲ樺太ニ施行スルヲ要スルモノハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム但シ左ノ事項ニ關シテハ勅令ヲ以テ特別ノ規定ヲ設クルコトヲ得

一　土人ニ關スルコト

二　行政官廳又ハ公署ノ職權ニ關スルコト

三　法律上ノ期間ニ關スルコト

四　裁判所又ハ裁判長カ職權ヲ以テ選任シ又ハ選定スル辯護人、訴訟代理人又ハ訴訟承繼人ニ關スルコト

附　則

本法ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル輸入原料砂糖戻稅法中改正法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治四十年三月二十八日

内閣總理大臣　侯爵西園寺公望
法學博士　阪谷芳郎
大藏大臣

法律第二十六號

輸入原料砂糖戻稅法中左ノ通改正ス

第一條第一項ヲ左ノ如ク改ム

輸入ノ砂糖ニシテ和蘭標本色相第十五號未滿ノモノヲ原料トシ政府ノ承認ヲ得テ精製糖又ハ氷砂糖ヲ製造シタル者ハ其ノ原料砂糖ノ數量ヨリ製造ノ際生成シタル和蘭標本色相第十五號未滿ノ砂糖ノ數量ヲ控除シタル數量ニ對シ左ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ノ下付ヲ政府ニ請求スルコトヲ得

一　製品ヲ内地消費ニ供スルトキ

イ　和蘭標本色相第八號未滿ノモノヲ原料トシタルトキハ百斤ニ付金一圓四十五錢

ロ　和蘭標本色相第十五號未滿ノモノヲ原料トシタルトキハ百斤ニ付金一圓九十五錢

二　製品ヲ外國ニ輸出スルトキ

イ　和蘭標本色相第八號未滿ノモノヲ原料トシタルトキハ百斤ニ付金一圓六十五錢

ロ　和蘭標本色相第十五號未滿ノモノヲ原料トシタルトキハ百斤ニ付金二圓二十五錢

第四條中「明治四十年三月三十一日」ヲ「明治四十二年三月三十一日」ニ改ム

附則

本法ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル印紙稅法中改正法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治四十年三月二十八日

内閣總理大臣　侯爵西園寺公望
法學博士　阪谷芳郎
大藏大臣

法律第二十七號

印紙稅法中左ノ通改正ス

第三條　約束手形ニ關シテハ一通毎ニ其ノ記載金高ニ應シ左ノ印紙稅ヲ納ムヘシ

金高千圓以下ノモノ	印紙稅　五錢
金高五千圓以下ノモノ	印紙稅　十錢
金高一萬圓以下ノモノ	印紙稅　二十錢
金高二萬圓以下ノモノ	印紙稅　五十錢
金高三萬圓以下ノモノ	印紙稅　一圓
金高五萬圓以下ノモノ	印紙稅　二圓
金高十萬圓以下ノモノ	印紙稅　四圓
金高十萬圓ヲ超ユルモノ	印紙稅　七圓

第四條中「一　約束手形　印紙稅二錢」ヲ削ル

附則

本法ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

非常特別稅法中約束手形及小切手ノ印紙稅ニ關スル規定ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル樺太地方裁判所及同管内二區裁判所設置ニ關スル法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治四十年三月二十八日

内閣總理大臣　侯爵西園寺公望
司法大臣　松田正久

法律第二十八號

第一條　樺太島「ウラジミロフカ」ニ樺太地方裁判所及ウラジミロフカ區裁判所ヲ置キ同島「マウカ」ニマウカ區裁判所ヲ置ク

第二條　裁判所位置及管轄區域表中函館控訴院ノ部「根室地方裁判所」欄ノ次ニ左ノ一欄ヲ加フ

樺太		
ウラジミロフカ	樺太	水島南端「シラヌシ」岬ヨリノメノコ山「ウインザス」山「ベルニセント」山「スパンベルグ」山「エスワル」山ヲ連繫スル山脈ヲ經テ國境ニ至ル一線ヲ境界トシ其ノ以東、海豹島、水島南端「シラヌシ」岬ヨリノメノコ山「ウインザス」山「ベルニセント」山「スパンベルグ」山「エスワル」山ヲ連繫スル山脈ヲ經テ國境ニ至ル一線ヲ境界トシ其ノ以西　海馬島
マウカ	樺太	

附則

本法ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本法施行前從前ノ規定ニ依リ舊管轄廳ニ於テ受理シタル事件ハ現在ノ儘相當ノ裁判所ニ移ルモノトス既ニ爲シタル處分言渡ハ管轄裁判所ノ爲シタル確定裁判ト看做シ既ニ成立シタル勘解ハ管轄裁判所ニ於テ爲シタル和解ト看做ス

○豫算

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル明治四十年度歳入歳出總豫算追加ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治四十年三月二十八日

内閣總理大臣　侯爵西園寺公望
農商務大臣　松岡康毅
大藏大臣　法學博士阪谷芳郎
遞信大臣　山縣伊三郎
司法大臣　松田正久
文部大臣　牧野伸顯

豫算

第一條　明治四十年度歳入歳出追加額ヲ各九拾貳萬千百九拾八圓ト定ム其款項ノ金額ハ別冊甲號歳入歳出豫算ニ據ルヘシ

第二條　別冊乙號所揭ノ費途ハ各其現晝スル所ニ隨ヒ明治四十一年度ニ亙ル繼續費ト爲ス

（別冊）

甲號

歳入經常部

第三款　官業及官有財產收入　金貳拾八萬九千六百五拾九圓

第二項　森林收入　金貳拾八萬九千六百五拾九圓

歳入臨時部

第十一款　前年度繰入金　金六拾參萬千五百參拾九圓

第一項　前年度繰入金　金六拾參萬千五百參拾九圓

歳入總計金九拾貳萬千百九拾八圓

歳出臨時部

大藏省所管

第十三款　韓國森林資金繰入　金參拾萬圓

第一項　韓國森林資金繰入　金參拾萬圓

司法省所管

第二款　營繕費　金九萬八千參百拾五圓

第七項　新營繕費　金九萬八千參百拾五圓

文部省所管

第一款　營繕費　金七萬參千四百參拾貳圓

第八項　仙臺高等工業學校改舍火災復舊費　金七萬圓

官報　第七二二一號　明治四十年三月二十九日（第三種郵便物認可）

第九項　仙臺高等工業學校火災應急費　金參千四百參拾貳圓
農商務省所管
第五款　營繕費　金六萬九千七百參拾圓
第二項　新營費　金六萬九千七百參拾圓
遞信省所管
第二款　電信電話營繕費　金拾四萬九千九百拾參圓
第一項　電信電話營繕費　金拾四萬九千九百拾參圓
第四款　營繕費　金貳拾貳萬九千八百八圓
第五項　本省廳舍新營費　金貳拾萬圓
第六項　本省建物火災應急費　金貳萬九千八百八圓
遞信省所管合計金參拾七萬九千七百貳拾壹圓
歲出臨時部合計金九拾貳萬千百九拾八圓

（別冊）
乙號
第一
仙臺高等工業學校校舍火災復舊費
總額
金拾萬六千參百六拾五圓　款　營繕費　項　仙臺高等工業學校校舍火災復舊費
金拾萬六千參百六拾五圓
年額
明治四十年度
金七萬圓
金七萬圓
明治四十一年度
金參萬六千參百六拾五圓　款　營繕費　項　仙臺高等工業學校校舍火災復舊費
金參萬六千參百六拾五圓
第二
遞信本省廳舍新營費
總額
金五拾八萬貳千六百拾圓　款　營繕費　項　本省廳舍新營費
金五拾八萬貳千六百拾圓
年額
明治四十年度
金貳拾萬圓　款　營繕費　項　本省廳舍新營費
金貳拾萬圓

特別會計豫算
明治四十年度內務省所管臺灣總督府大藏省所管韓國森林歲入歲出豫算追加額及其款項ノ金額ハ別冊歲入歲出豫算ニ據ルヘシ

（別冊）
內務省所管
臺灣總督府
歲入
臨時部
第三款　前年度繰入金　金拾五萬五千貳百拾五圓
第一項　前年度繰入金　金拾五萬五千貳百拾五圓
歲出
臨時部
第十二款　災害費　金拾五萬五千貳百拾五圓
第一項　專賣局樟腦工場火災復舊費　金拾五萬五千貳百拾五圓
大藏省所管
韓國森林資本勘定
歲入
第一款　森林資金收入　金六拾萬圓

第一項　一般會計受入　金參拾萬圓
第二項　韓國政府分擔金受入　金參拾萬圓
歲出
第一款　創業費　金拾四萬六千圓
第一項　創業費　金拾四萬六千圓
收益勘定
歲入
第一款　森林收入　金貳拾四萬千貳百圓
第一項　作業收入　金貳拾四萬圓
第二項　雜收入　金千貳百圓
歲出
第一款　森林作業費　金參拾九萬五千八百七拾圓
第一項　俸給及諸給　金四萬八千百八拾圓
第二項　事業費　金參拾四萬七千六百九拾圓
第二款　豫備金　金五萬八千圓
第一項　第一豫備金　金參千圓
第二項　豫備費　金五萬五千圓
合計金四拾五萬參千八百七拾圓

○勅令

朕明治四十年法律第二十號施行期日ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治四十年三月二十八日

內閣總理大臣　侯爵西園寺公望
大藏大臣　法學博士　阪谷芳郎

勅令第六十三號
明治四十年法律第二十號ハ明治四十年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

官報　第七二二號　明治四十年三月二十九日（第三種郵便物認可）

朕郵便法、郵便爲替法、郵便貯金法、鐵道船舶郵便法及電信法ヲ樺太ニ施行スルノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治四十年三月二十八日

內閣總理大臣　侯爵西園寺公望
遞信大臣　山縣伊三郎
內務大臣　原敬

勅令第六十四號
郵便法、郵便爲替法、郵便貯金法、鐵道船舶郵便法及電信法ヲ樺太ニ施行スル件
附則
本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ統監府及理事廳官制中改正ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治四十年三月二十八日

內閣總理大臣　侯爵西園寺公望

勅令第六十五號
統監府及理事廳官制中左ノ通改正ス
第十一條中「五人」ヲ「十人（內一人ヲ勅任トス）」ニ、「四十五人」ヲ「五十九人」ニ改ム
附則
本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

許可 7121 本文

朕理事廳職員定員令中改正ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治四十年三月二十八日

內閣總理大臣　侯爵西園寺公望

勅令第六十六號

理事廳職員定員令中左ノ通改正ス

「九十八」ヲ「百八」ニ改ム

附　則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

朕統監府財政監査廳職員官等給與令中改正ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治四十年三月二十八日

內閣總理大臣　侯爵西園寺公望

勅令第六十七號

統監府財政監査廳職員官等給與令中「統監府財政監査官ノ官等及給與ハ」ノ下ニ「勅任ニ在リテハ統監府農商工務總長ノ側、奏任ニ在リテハ」ヲ加フ

朕統監府及所屬官署技師官等給與令ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治四十年三月二十八日

內閣總理大臣　侯爵西園寺公望

勅令第六十八號

統監府及所屬官署技師官等給與令

第一條　統監府及所屬官署技師ノ官等ハ二等乃至八等トシ本俸ノ年額ハ別表ニ依ル但シ勅任鐵道技師ニ限リ年功ニ依リ四千圓ヲ給スルコトヲ得

第二條　本令ニ規定セサルモノハ統監府及理事廳職員給與令ノ規定ヲ準用ス

附　則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

（別表）

統監府及所屬官署技師本俸表

勅任	一級 三千五百圓	二級 三千圓			
奏任	一級 二千八百圓	二級 二千六百圓	三級 二千四百圓	四級 二千二百圓	五級 二千圓
	六級 千八百圓	七級 千六百圓	八級 千四百圓	九級 千二百圓	十級 千圓
	十一級 九百圓	十二級 八百圓	十三級 七百圓	十四級 六百圓	

勅令第六十九號

統監府勸業模範場官制ハ之ヲ廢止ス

附　則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

朕統監府觀測所官制ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治四十年三月二十八日

內閣總理大臣　侯爵西園寺公望

勅令第七十號

統監府觀測所官制

第一條　統監府觀測所ハ統監ノ管理ニ屬シ氣象觀測ノ事務ヲ掌ル

第二條　統監府觀測所ニ左ノ職員ヲ置ク

所長　技師　專任　一人

技手　專任　十八人

書記　專任　一人　判任

所長ハ技師ヲ以テ之ニ充ツ

第三條　所長ハ統監ノ命ヲ承ケ所務ヲ掌理ス

第四條　技師ハ上官ノ命ヲ承ケ技術ヲ掌ル

第五條　技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ技術ニ從事ス

第六條　書記ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務及通譯ニ從事ス

第七條　統監ハ必要ト認メタル地ニ支所ヲ置クコトヲ得

附　則

本令ハ明治四十年三月三十一日ヨリ之ヲ施行ス

朕統監府觀測所判任官ノ給與ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治四十年三月二十八日

內閣總理大臣　侯爵西園寺公望

勅令第七十一號

統監府觀測所判任官ノ給與ニ關シテハ理事廳判任官ノ例ニ依ル

附　則

本令ハ明治四十年三月三十一日ヨリ之ヲ施行ス

朕統監府營林廠官制ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治四十年三月二十八日

內閣總理大臣　侯爵西園寺公望

勅令第七十二號

統監府營林廠官制

第一條　統監府營林廠ハ統監ノ管理ニ屬シ協約ニ基キ鴨綠江及豆滿江沿岸ニ於ケル森林經營ニ關スル事務ヲ掌ル

第二條　統監府營林廠ニ左ノ職員ヲ置ク

廠長	專任	一人	勅任又ハ奏任
事務官	專任	五人	奏任
技師	專任	二人	
屬	專任	二十五人	判任
技手			
通譯生			

第三條　廠長ハ統監ノ命ヲ承ケ廠中一切ノ事務ヲ掌理ス

第四條　事務官ハ廠長ノ命ヲ承ケ廠務ヲ掌ル

官報　第七二二一號　明治四十年三月二十九日（第三種郵便物認可）

第五條　技師ハ上官ノ命ヲ承ケ技術ヲ掌ル
第六條　屬ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス
第七條　技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ技術ニ從事ス
第八條　通譯生ハ上官ノ指揮ヲ承ケ翻譯及通辯ニ從事ス
第九條　統監ハ必要ト認ムル地ニ營林支廠ヲ設クルコトヲ得
支廠長ハ事務官ヲ以テ之ニ充ツ

附　則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第七十三號

統監府營林廠職員官等給與令

第一條　統監府營林廠長ノ官等ハ二等又ハ三等トシ統監府營林廠事務官ノ官等ハ四等乃至七等トス

第二條　統監府營林廠長ノ本俸ハ年額一級三千圓二級二千五百圓トシ統監府營林廠事務官ノ本俸ニ付テハ統監府及理事廳職員給與令中奏任文官本俸第二號表ヲ準用ス

第三條　統監府及理事廳職員給與令第七條ノ規定ハ統監府營林廠職員ニ之ヲ準用ス

第四條　本令ニ規定セサルモノハ高等官官等俸給令ニ依ル

附　則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第七十四號

統監府營林廠職員特別任用令

第一條　統監府營林廠長及統監府營林廠事務官ハ左ニ掲ケル者ノ中ヨリ文官高等試驗委員ノ銓衡ヲ經テ之ヲ任用スルコトヲ得

一　陸軍將校同相當官ニシテ森林事務ニ從事スル者又ハ從事シタル者

二　森林行政ニ關スル高等文官ノ職ニ在ル者又ハ在リタル者

第二條　統監府營林廠屬ハ森林行政ニ關スル判任官ノ職ニ在ル者又ハ在リタル者ノ中ヨリ文官普通試驗委員ノ銓衡ヲ經テ之ヲ任用スルコトヲ得

附　則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第七十五號

統監府營林廠職員特別任用令ニ依リ陸軍將校同相當官ヨリ統監府營林廠職員ニ任用セラルル者又ハ任用セラレタル者ノ官等ニ付テハ高等文官轉任ノ例ヲ準用ス

前項ノ官吏ハ明治三十六年勅令第二百八十五號ニ依ル特別文官トス

勅令第七十六號

陸軍現役將校同相當官ニシテ統監府營林廠職員ニ任セラレタル者ハ陸軍ニ於テ之ヲ定員外ト爲スコトヲ得

前項ニ依リ定員外ト爲リタル者ニ對シテハ陸軍ニ在リテハ在職陸軍現役武官ニ關スル規定ヲ適用ス但シ給與ニ關スル規定ハ此ノ限ニ在ラス

附　則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第七十七號

衞生試驗所官制中左ノ通改正ス

第六條中「二十六人」ヲ「二十九人」ニ改ム

附　則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第七十八號

大藏省官制中左ノ通改正ス

第九條中「二百十一人」ヲ「二百十六人」ニ改ム

附　則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第七十九號

衞生試驗所官制中左ノ通改正ス

第六條中「二十六人」ヲ「二十九人」ニ改ム

附　則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第八十號

大藏省官制中左ノ通改正ス

第九條中「二百十一人」ヲ「二百十六人」ニ改ム

附　則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第八十一號

衞生試驗所官制中左ノ通改正ス

第六條中「二十六人」ヲ「二十九人」ニ改ム

附　則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第八十二號

大藏省官制中左ノ通改正ス

第九條中「二百十一人」ヲ「二百十六人」ニ改ム

附　則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第八十三號

衞生試驗所官制中左ノ通改正ス

第六條中「二十六人」ヲ「二十九人」ニ改ム

附　則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第八十四號

大藏省官制中左ノ通改正ス

第九條中「二百十一人」ヲ「二百十六人」ニ改ム

附　則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第八十五號

大藏省官制中左ノ通改正ス

第九條中「二百十一人」ヲ「二百十六人」ニ改ム

附　則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第八十六號

大藏省官制中左ノ通改正ス

第九條中「二百十一人」ヲ「二百十六人」ニ改ム

附　則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第八十七號

衞生試驗所官制中左ノ通改正ス

第六條中「二十六人」ヲ「二十九人」ニ改ム

附　則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第八十八號

大藏省官制中左ノ通改正ス

第九條中「二百十一人」ヲ「二百十六人」ニ改ム

附　則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第八十九號

衞生試驗所官制中左ノ通改正ス

第六條中「二十六人」ヲ「二十九人」ニ改ム

附　則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第九十號

大藏省官制中左ノ通改正ス

第九條中「二百十一人」ヲ「二百十六人」ニ改ム

附　則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第九十一號

大藏省官制中左ノ通改正ス

第九條中「二百十一人」ヲ「二百十六人」ニ改ム

附　則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第九十二號

大藏省官制中左ノ通改正ス

第九條中「二百十一人」ヲ「二百十六人」ニ改ム

附　則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第九十三號

大藏省官制中左ノ通改正ス

第九條中「二百十一人」ヲ「二百十六人」ニ改ム

附　則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第九十四號

大藏省官制中左ノ通改正ス

第九條中「二百十一人」ヲ「二百十六人」ニ改ム

附　則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第九十五號

大藏省官制中左ノ通改正ス

第九條中「二百十一人」ヲ「二百十六人」ニ改ム

附　則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第九十六號

大藏省官制中左ノ通改正ス

第九條中「二百十一人」ヲ「二百十六人」ニ改ム

附　則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第九十七號

大藏省官制中左ノ通改正ス

第九條中「二百十一人」ヲ「二百十六人」ニ改ム

附　則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第九十八號

大藏省官制中左ノ通改正ス

第九條中「二百十一人」ヲ「二百十六人」ニ改ム

附　則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第九十九號

大藏省官制中左ノ通改正ス

第九條中「二百十一人」ヲ「二百十六人」ニ改ム

附　則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第百號

大藏省官制中左ノ通改正ス

第九條中「二百十一人」ヲ「二百十六人」ニ改ム

附　則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第百一號

大藏省官制中左ノ通改正ス

第九條中「二百十一人」ヲ「二百十六人」ニ改ム

附　則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第百二號

大藏省官制中左ノ通改正ス

第九條中「二百十一人」ヲ「二百十六人」ニ改ム

附　則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第百三號

大藏省官制中左ノ通改正ス

第九條中「二百十一人」ヲ「二百十六人」ニ改ム

附　則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第百四號

大藏省官制中左ノ通改正ス

第九條中「二百十一人」ヲ「二百十六人」ニ改ム

附　則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第百五號

大藏省官制中左ノ通改正ス

第九條中「二百十一人」ヲ「二百十六人」ニ改ム

附　則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第百六號

大藏省官制中左ノ通改正ス

第九條中「二百十一人」ヲ「二百十六人」ニ改ム

附　則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第百七號

大藏省官制中左ノ通改正ス

第九條中「二百十一人」ヲ「二百十六人」ニ改ム

附　則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第百八號

大藏省官制中左ノ通改正ス

第九條中「二百十一人」ヲ「二百十六人」ニ改ム

附　則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第百九號

大藏省官制中左ノ通改正ス

第九條中「二百十一人」ヲ「二百十六人」ニ改ム

附　則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第百十號

大藏省官制中左ノ通改正ス

第九條中「二百十一人」ヲ「二百十六人」ニ改ム

附　則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第百十一號

大藏省官制中左ノ通改正ス

第九條中「二百十一人」ヲ「二百十六人」ニ改ム

附　則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第百十二號

大藏省官制中左ノ通改正ス

第九條中「二百十一人」ヲ「二百十六人」ニ改ム

附　則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第百十三號

大藏省官制中左ノ通改正ス

第九條中「二百十一人」ヲ「二百十六人」ニ改ム

附　則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第百十四號

大藏省官制中左ノ通改正ス

第九條中「二百十一人」ヲ「二百十六人」ニ改ム

附　則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第百十五號

大藏省官制中左ノ通改正ス

第九條中「二百十一人」ヲ「二百十六人」ニ改ム

附　則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第百十六號

大藏省官制中左ノ通改正ス

第九條中「二百十一人」ヲ「二百十六人」ニ改ム

附　則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第百十七號

大藏省官制中左ノ通改正ス

第九條中「二百十一人」ヲ「二百十六人」ニ改ム

附　則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第百十八號

大藏省官制中左ノ通改正ス

第九條中「二百十一人」ヲ「二百十六人」ニ改ム

附　則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第百十九號

大藏省官制中左ノ通改正ス

第九條中「二百十一人」ヲ「二百十六人」ニ改ム

附　則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第百二十號

大藏省官制中左ノ通改正ス

第九條中「二百十一人」ヲ「二百十六人」ニ改ム

附　則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第百二十一號

大藏省官制中左ノ通改正ス

第九條中「二百十一人」ヲ「二百十六人」ニ改ム

附　則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第百二十二號

大藏省官制中左ノ通改正ス

第九條中「二百十一人」ヲ「二百十六人」ニ改ム

附　則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第百二十三號

大藏省官制中左ノ通改正ス

第九條中「二百十一人」ヲ「二百十六人」ニ改ム

附　則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第百二十四號

大藏省官制中左ノ通改正ス

第九條中「二百十一人」ヲ「二百十六人」ニ改ム

附　則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第百二十五號

大藏省官制中左ノ通改正ス

第九條中「二百十一人」ヲ「二百十六人」ニ改ム

附　則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第百二十六號

大藏省官制中左ノ通改正ス

第九條中「二百十一人」ヲ「二百十六人」ニ改ム

附　則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第百二十七號

大藏省官制中左ノ通改正ス

第九條中「二百十一人」ヲ「二百十六人」ニ改ム

附　則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第百二十八號

大藏省官制中左ノ通改正ス

第九條中「二百十一人」ヲ「二百十六人」ニ改ム

附　則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第百二十九號

大藏省官制中左ノ通改正ス

第九條中「二百十一人」ヲ「二百十六人」ニ改ム

附　則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第百三十號

大藏省官制中左ノ通改正ス

第九條中「二百十一人」ヲ「二百十六人」ニ改ム

附　則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第百三十一號

大藏省官制中左ノ通改正ス

第九條中「二百十一人」ヲ「二百十六人」ニ改ム

附　則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第百三十二號

大藏省官制中左ノ通改正ス

第九條中「二百十一人」ヲ「二百十六人」ニ改ム

附　則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第百三十三號

大藏省官制中左ノ通改正ス

第九條中「二百十一人」ヲ「二百十六人」ニ改ム

附　則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第百三十四號

大藏省官制中左ノ通改正ス

第九條中「二百十一人」ヲ「二百十六人」ニ改ム

附　則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第百三十五號

大藏省官制中左ノ通改正ス

第九條中「二百十一人」ヲ「二百十六人」ニ改ム

附　則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第百三十六號

大藏省官制中左ノ通改正ス

第九條中「二百十一人」ヲ「二百十六人」ニ改ム

附　則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第百三十七號

大藏省官制中左ノ通改正ス

第九條中「二百十一人」ヲ「二百十六人」ニ改ム

附　則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第百三十八號

大藏省官制中左ノ通改正ス

第九條中「二百十一人」ヲ「二百十六人」ニ改ム

附　則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第百三十九號

大藏省官制中左ノ通改正ス

第九條中「二百十一人」ヲ「二百十六人」ニ改ム

附　則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第百四十號

大藏省官制中左ノ通改正ス

第九條中「二百十一人」ヲ「二百十六人」ニ改ム

附　則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第百四十一號

大藏省官制中左ノ通改正ス

第九條中「二百十一人」ヲ「二百十六人」ニ改ム

附　則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第百四十二號

大藏省官制中左ノ通改正ス

第九條中「二百十一人」ヲ「二百十六人」ニ改ム

附　則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第百四十三號

大藏省官制中左ノ通改正ス

第九條中「二百十一人」ヲ「二百十六人」ニ改ム

附　則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第百四十四號

大藏省官制中左ノ通改正ス

第九條中「二百十一人」ヲ「二百十六人」ニ改ム

附　則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第百四十五號

大藏省官制中左ノ通改正ス

第九條中「二百十一人」ヲ「二百十六人」ニ改ム

附　則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第百四十六號

大藏省官制中左ノ通改正ス

第九條中「二百十一人」ヲ「二百十六人」ニ改ム

附　則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第百四十七號

大藏省官制中左ノ通改正ス

第九條中「二百十一人」ヲ「二百十六人」ニ改ム

附　則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第百四十八號

大藏省官制中左ノ通改正ス

第九條中「二百十一人」ヲ「二百十六人」ニ改ム

附　則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第百四十九號

大藏省官制中左ノ通改正ス

第九條中「二百十一人」ヲ「二百十六人」ニ改ム

附　則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第百五十號

大藏省官制中左ノ通改正ス

第九條中「二百十一人」ヲ「二百十六人」ニ改ム

附　則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第百五十一號

大藏省官制中左ノ通改正ス

第九條中「二百十一人」ヲ「二百十六人」ニ改ム

附　則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第百五十二號

大藏省官制中左ノ通改正ス

第九條中「二百十一人」ヲ「二百十六人」ニ改ム

附　則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第百五十三號

大藏省官制中左ノ通改正ス

第九條中「二百十一人」ヲ「二百十六人」ニ改ム

附　則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第百五十四號

大藏省官制中左ノ通改正ス

第九條中「二百十一人」ヲ「二百十六人」ニ改ム

附　則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第百五十五號

大藏省官制中左ノ通改正ス

第九條中「二百十一人」ヲ「二百十六人」ニ改ム

附　則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第百五十六號

大藏省官制中左ノ通改正ス

第九條中「二百十一人」ヲ「二百十六人」ニ改ム

附　則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第百五十七號

大藏省官制中左ノ通改正ス

第九條中「二百十一人」ヲ「二百十六人」ニ改ム

附　則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第百五十八號

大藏省官制中左ノ通改正ス

第九條中「二百十一人」ヲ「二百十六人」ニ改ム

附　則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第百五十九號

大藏省官制中左ノ通改正ス

第九條中「二百十一人」ヲ「二百十六人」ニ改ム

附　則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第百六十號

大藏省官制中左ノ通改正ス

第九條中「二百十一人」ヲ「二百十六人」ニ改ム

附　則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第百六十一號

大藏省官制中左ノ通改正ス

第九條中「二百十一人」ヲ「二百十六人」ニ改ム

附　則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第百六十二號

大藏省官制中左ノ通改正ス

第九條中「二百十一人」ヲ「二百十六人」ニ改ム

附　則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第百六十三號

大藏省官制中左ノ通改正ス

第九條中「二百十一人」ヲ「二百十六人」ニ改ム

附　則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第百六十四號

大藏省官制中左ノ通改正ス

第九條中「二百十一人」ヲ「二百十六人」ニ改ム

附　則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第百六十五號

大藏省官制中左ノ通改正ス

第九條中「二百十一人」ヲ「二百十六人」ニ改ム

附　則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第百六十六號

大藏省官制中左ノ通改正ス

第九條中「二百十一人」ヲ「二百十六人」ニ改ム

附　則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第百六十七號

大藏省官制中左ノ通改正ス

第九條中「二百十一人」ヲ「二百十六人」ニ改ム

附　則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第百六十八號

大藏省官制中左ノ通改正ス

第九條中「二百十一人」ヲ「二百十六人」ニ改ム

附　則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第百六十九號

大藏省官制中左ノ通改正ス

第九條中「二百十一人」ヲ「二百十六人」ニ改ム

附　則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第百七十號

大藏省官制中左ノ通改正ス

第九條中「二百十一人」ヲ「二百十六人」ニ改ム

附　則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第百七十一號

大藏省官制中左ノ通改正ス

第九條中「二百十一人」ヲ「二百十六人」ニ改ム

附　則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第百七十二號

大藏省官制中左ノ通改正ス

第九條中「二百十一人」ヲ「二百十六人」ニ改ム

附　則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第百七十三號

大藏省官制中左ノ通改正ス

第九條中「二百十一人」ヲ「二百十六人」ニ改ム

附　則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第百七十四號

大藏省官制中左ノ通改正ス

第九條中「二百十一人」ヲ「二百十六人」ニ改ム

附　則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第百七十五號

大藏省官制中左ノ通改正ス

第九條中「二百十一人」ヲ「二百十六人」ニ改ム

附　則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第百七十六號

大藏省官制中左ノ通改正ス

第九條中「二百十一人」ヲ「二百十六人」ニ改ム

附　則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第百七十七號

大藏省官制中左ノ通改正ス

第九條中「二百十一人」ヲ「二百十六人」ニ改ム

附　則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第百七十八號

大藏省官制中左ノ通改正ス

第九條中「二百十一人」ヲ「二百十六人」ニ改ム

附　則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第百七十九號

大藏省官制中左ノ通改正ス

第九條中「二百十一人」ヲ「二百十六人」ニ改ム

附　則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第百八十號

大藏省官制中左ノ通改正ス

第九條中「二百十一人」ヲ「二百十六人」ニ改ム

附　則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第百八十一號

大藏省官制中左ノ通改正ス

第九條中「二百十一人」ヲ「二百十六人」ニ改ム

附　則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第百八十二號

大藏省官制中左ノ通改正ス

第九條中「二百十一人」ヲ「二百十六人」ニ改ム

附　則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第百八十三號

大藏省官制中左ノ通改正ス

第九條中「二百十一人」ヲ「二百十六人」ニ改ム

附　則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第百八十四號

大藏省官制中左ノ通改正ス

第九條中「二百十一人」ヲ「二百十六人」ニ改ム

附　則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第百八十五號

大藏省官制中左ノ通改正ス

第九條中「二百十一人」ヲ「二百十六人」ニ改ム

附　則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第百八十六號

大藏省官制中左ノ通改正ス

第九條中「二百十一人」ヲ「二百十六人」ニ改ム

附　則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第百八十七號

大藏省官制中左ノ通改正ス

第九條中「二百十一人」ヲ「二百十六人」ニ改ム

附　則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第百八十八號

大藏省官制中左ノ通改正ス

第九條中「二百十一人」ヲ「二百十六人」ニ改ム

附　則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第百八十九號

大藏省官制中左ノ通改正ス

第九條中「二百十一人」ヲ「二百十六人」ニ改ム

附　則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第百九十號

大藏省官制中左ノ通改正ス

第九條中「二百十一人」ヲ「二百十六人」ニ改ム

附　則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第百九十一號

大藏省官制中左ノ通改正ス

第九條中「二百十一人」ヲ「二百十六人」ニ改ム

附　則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第百九十二號

大藏省官制中左ノ通改正ス

第九條中「二百十一人」ヲ「二百十六人」ニ改ム

附　則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第百九十三號

大藏省官制中左ノ通改正ス

第九條中「二百十一人」ヲ「二百十六人」ニ改ム

附　則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第百九十四號

大藏省官制中左ノ通改正ス

第九條中「二百十一人」ヲ「二百十六人」ニ改ム

附　則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第百九十五號

大藏省官制中左ノ通改正ス

第九條中「二百十一人」ヲ「二百十六人」ニ改ム

附　則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第百九十六號

大藏省官制中左ノ通改正ス

第九條中「二百十一人」ヲ「二百十六人」ニ改ム

附　則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第百九十七號

大藏省官制中左ノ通改正ス

第九條中「二百十一人」ヲ「二百十六人」ニ改ム

附　則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第百九十八號

大藏省官制中左ノ通改正ス

第九條中「二百十一人」ヲ「二百十六人」ニ改ム

附　則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第百九十九號

大藏省官制中左ノ通改正ス

第九條中「二百十一人」ヲ「二百十六人」ニ改ム

附　則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第二百號

大藏省官制中左ノ通改正ス

第九條中「二百十一人」ヲ「二百十六人」ニ改ム

附　則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第二百一號

大藏省官制中左ノ通改正ス

第九條中「二百十一人」ヲ「二百十六人」ニ改ム

附　則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第二百二號

大藏省官制中左ノ通改正ス

第九條中「二百十一人」ヲ「二百十六人」ニ改ム

附　則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第二百三號

大藏省官制中左ノ通改正ス

第九條中「二百十一人」ヲ「二百十六人」ニ改ム

附　則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第二百四號

大藏省官制中左ノ通改正ス

第九條中「二百十一人」ヲ「二百十六人」ニ改ム

附　則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第二百五號

大藏省官制中左ノ通改正ス

第九條中「二百十一人」ヲ「二百十六人」ニ改ム

附　則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第二百六號

大藏省官制中左ノ通改正ス

第九條中「二百十一人」ヲ「二百十六人」ニ改ム

附　則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第二百七號

大藏省官制中左ノ通改正ス

第九條中「二百十一人」ヲ「二百十六人」ニ改ム

附　則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第二百八號

大藏省官制中左ノ通改正ス

第九條中「二百十一人」ヲ「二百十六人」ニ改ム

附　則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第二百九號

大藏省官制中左ノ通改正ス

第九條中「二百十一人」ヲ「二百十六人」ニ改ム

附　則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第二百十號

大藏省官制中左ノ通改正ス

第九條中「二百十一人」ヲ「二百十六人」ニ改ム

附　則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第二百十一號

大藏省官制中左ノ通改正ス

第九條中「二百十一人」ヲ「二百十六人」ニ改ム

附　則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第二百十二號

大藏省官制中左ノ通改正ス

第九條中「二百十一人」ヲ「二百十六人」ニ改ム

附　則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第二百十三號

大藏省官制中左ノ通改正ス

第九條中「二百十一人」ヲ「二百十六人」ニ改ム

附　則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第二百十四號

大藏省官制中左ノ通改正ス

第九條中「二百十一人」ヲ「二百十六人」ニ改ム

附　則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第二百十五號

大藏省官制中左ノ通改正ス

第九條中「二百十一人」ヲ「二百十六人」ニ改ム

附　則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第二百十六號

大藏省官制中左ノ通改正ス

第九條中「二百十一人」ヲ「二百十六人」ニ改ム

附　則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第二百十七號

大藏省官制中左ノ通改正ス

第九條中「二百十一人」ヲ「二百十六人」ニ改ム

附　則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第二百十八號

大藏省官制中左ノ通改正ス

第九條中「二百十一人」ヲ「二百十六人」ニ改ム

附　則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第二百十九號

大藏省官制中左ノ通改正ス

第九條中「二百十一人」ヲ「二百十六人」ニ改ム

附　則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第二百二十號

大藏省官制中左ノ通改正ス

第九條中「二百十一人」ヲ「二百十六人」ニ改ム

附　則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第二百二十一號

大藏省官制中左ノ通改正ス

第九條中「二百十一人」ヲ「二百十六人」ニ改ム

附　則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第二百二十二號

大藏省官制中左ノ通改正ス

第九條中「二百十一人」ヲ「二百十六人」ニ改ム

附　則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第二百二十三號

大藏省官制中左ノ通改正ス

第九條中「二百十一人」ヲ「二百十六人」ニ改ム

附　則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第二百二十四號

大藏省官制中左ノ通改正ス

第九條中「二百十一人」ヲ「二百十六人」ニ改ム

附　則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第二百二十五號

大藏省官制中左ノ通改正ス

第九條中「二百十一人」ヲ「二百十六人」ニ改ム

附　則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第二百二十六號

大藏省官制中左ノ通改正ス

第九條中「二百十一人」ヲ「二百十六人」ニ改ム

附　則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第二百二十七號

大藏省官制中左ノ通改正ス

第九條中「二百十一人」ヲ「二百十六人」ニ改ム

附　則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第二百二十八號

大藏省官制中左ノ通改正ス

第九條中「二百十一人」ヲ「二百十六人」ニ改ム

附　則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第二百二十九號

大藏省官制中左ノ通改正ス

第九條中「二百十一人」ヲ「二百十六人」ニ改ム

附　則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第二百三十號

大藏省官制中左ノ通改正ス

第九條中「二百十一人」ヲ「二百十六人」ニ改ム

附　則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第二百三十一號

大藏省官制中左ノ通改正ス

第九條中「二百十一人」ヲ「二百十六人」ニ改ム

附　則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第二百三十二號

大藏省官制中左ノ通改正ス

第九條中「二百十一人」ヲ「二百十六人」ニ改ム

附　則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第二百三十三號

大藏省官制中左ノ通改正ス

第九條中「二百十一人」ヲ「二百十六人」ニ改ム

附　則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第二百三十四號

大藏省官制中左ノ通改正ス

第九條中「二百十一人」ヲ「二百十六人」ニ改ム

附　則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第二百三十五號

大藏省官制中左ノ通改正ス

第九條中「二百十一人」ヲ「二百十六人」ニ改ム

附　則

本令ハ明治四十年四月一日

勅令第七十九號
判事檢事官等俸給令中左ノ通改正ス
第二條中「四十九人」ヲ「五十人」ニ、「二百九十八人」ヲ「二百九十三人」ニ、「九十一人」ヲ「九十二人」ニ、「六百三人」ヲ「六百四十三人」ニ、「百九十五人」ヲ「二百一人」ニ改ム
第三條中地方裁判所ノ部「札幌」ノ下ニ「樺太」ヲ加ヘ左ノ一項ヲ加フ
前項ノ外樺太ニ在職スル地方裁判所及區裁判所ノ判事檢事ニハ三級俸迄ヲ給スルコトヲ得
附則
本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

朕裁判所書記長書記定員及俸給令中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治四十年三月二十八日
内閣總理大臣　侯爵西園寺公望
司法大臣　松田正久

勅令第八十號
裁判所書記長書記定員及俸給令中左ノ通改正ス
第二條中「五百五人」ヲ「五百十一人」ニ、「百五十八人」ヲ「百六十人」ニ、「三千八百四十三人」ヲ「三千九百四十人」ニ改ム
附則
本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

朕中央氣象臺官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治四十年三月二十八日
内閣總理大臣　侯爵西園寺公望
文部大臣　牧野伸顯

勅令第八十一號
中央氣象臺官制中左ノ通改正ス
第二條　第一號ヲ左ノ如ク改ム
一　氣象調査及報告
第六條中「十七人」ヲ「二十五人」ニ改ム
附則
本令ハ明治四十年三月三十一日ヨリ之ヲ施行ス
明治三十七年勅令第六十號ハ之ヲ廢止ス

朕中央氣象臺技手ニ在清國帝國領事館附ヲ命スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治四十年三月二十八日
内閣總理大臣　侯爵西園寺公望
文部大臣　牧野伸顯
外務大臣　子爵林董

勅令第八十二號
第一條　文部大臣ハ氣象觀測ノ爲中央氣象臺技手ニ在清國帝國領事館附ヲ命スルコトヲ得
第二條　在清國帝國領事館附中央氣象臺技手ニハ月額五十圓以内ノ手當ヲ給ス其ノ給與ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム
附則
本令ハ明治四十年三月三十一日ヨリ之ヲ施行ス

朕樺太國有土地管理規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治四十年三月二十八日
内閣總理大臣　侯爵西園寺公望
内務大臣　原敬

勅令第八十三號
樺太國有土地管理規則
第一條　樺太國有土地ハ樺太廳長官之ヲ管理ス
第二條　樺太國有土地ノ貸付及賣拂ハ別段ノ規定アル場合ノ外競爭ニ付セス
第三條　開墾、牧畜又ハ植樹等ニ供スル土地ハ無償ニテ貸付スルコトヲ得
前項ニ依リ貸付シタル土地ハ左ノ條件ニ該當シタル場合ニ於テ之ヲ付與スヘシ
一　開墾ヲ目的トスル貸付地ニ在リテハ其ノ事業ノ二分ノ一以上ヲ成功シ且牛、馬二頭以上ヲ所有スルコト
二　牧畜及植樹等ヲ目的トスル貸付地ニ在リテハ其ノ事業全部成功スルコト
三　前各號ノ外貸付許可ノ後一箇年以内ニ其ノ土地又ハ其ノ附近ニ住居シ且一箇月以上引續キ又ハ一箇年中六箇月以上行政廳ノ許可ナクシテ其ノ住居地ヲ離レサルコト
第四條　前條貸付地ノ面積ハ左ノ制限ヲ超ユルコトヲ得ス
一　開墾ヲ目的トスル土地　九萬坪
二　牧畜又ハ植樹ヲ目的トスル土地　五十萬坪
三　其ノ他ノ目的ノ土地　五萬坪
第五條　公用、公共ノ利益ト爲ルヘキ事業又ハ社寺若ハ教會ノ用ニ供スル土地ハ之ヲ賣拂ヒ付與シ又ハ有償若ハ無償ニテ貸付スルコトヲ得
前項ノ外事業ノ目的ニ依リ必要ト認ムル土地ハ之ヲ賣拂フコトヲ得
第六條　市街地其ノ他土地ノ狀況ニ依リ必要ト認ムル土地ハ有償ニテ之ヲ貸付シ又ハ競爭ニ付シ之ヲ賣拂フコトヲ得
前項ニ依リ有償貸付ヲ爲シタル土地ハ隨意契約ヲ以テ之ヲ借地人ニ賣拂フコトヲ得
第七條　素地ノ儘使用セムトスル土地ハ有償又ハ無償ニテ之ヲ貸付スルコトヲ得
第八條　樺太國有土地ト民有地ノ交換ハ兩地ノ價格相均シキ場合ニ限リ之ヲ爲スコトヲ得
第九條　本令ニ依リ貸付、賣拂、付與及交換スヘキ土地ノ區域ハ樺太廳長官之ヲ告示ス
第十條　土地ノ貸付ハ左ノ期間ヲ超ユルコトヲ得ス
一　無償貸付　十箇年
二　有償貸付　十五箇年
泥炭地ノ開墾ニ限リ特ニ二十箇年以内ノ期間ヲ以テ貸付ヲ爲スコトヲ得
天災其ノ他避クヘカラサル事故ニ因リ貸付期間内ニ成功スルコト能ハサルトキハ前二項ノ例ニ依リ之ヲ更新スルコトヲ得
第十一條　第三條ニ依リ貸付シタル土地ハ隨時之ヲ檢査シ豫定ノ事業方法ニ違反スルトキハ其ノ全部ヲ返還セシムヘシ
第十二條　第三條ニ依リ貸付シタル土地ハ貸付期間滿了後一箇年以内ニ出願シタルトキニ限リ之ヲ付與スルコトヲ得
第十三條　事業ノ不成功ニ因リ返還セシメタル土地、侵墾地及前條ニ依リ付與ヲ出願セサル土地ニシテ全部成功セサルモノハ第三條ニ依リ處分スルコトヲ得
附則
本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
本令施行前ニ於テ使用特許又ハ貸付許可ヲ爲シタル土地ニ關シテハ樺太廳長官ノ定ムル所ニ從ヒ更ニ本令ニ依ル處分アル迄從前ノ例ニ依ル

朕樺太ニ於ケル政府ノ工事及物件ノ買入借入ニ關スル隨意契約ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治四十年三月二十八日
内閣總理大臣　侯爵西園寺公望
大藏大臣　法學博士　阪谷芳郎
内務大臣　原敬

第71121号　本文

第7121号 本文

勅令第八十四號

樺太ニ於ケル政府ノ工事及千五百圓ヲ超エサル物件ノ買入借入ハ競爭ニ付セス隨意契約ニ依ルコトヲ得

附 則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

〇省令

遞信省令第七號

明治三十三年十二月遞信省令第九十號鐵鋼船檢査規程左ノ通改正ス

明治四十年三月二十九日 遞信大臣 山縣伊三郎

第一條 鐵船若ハ鋼船ノ船體ノ構造ニ關シ此ノ規程ニ規定ナキモノニ付テハ明治三十三年四月遞信省令第十六號造船規程第一編（明治三十九年十一月遞信省令第四十八號ヲ以テ改正）ノ規定ヲ適用ス但第一章第十條、第十二條、第十三條、第十五條、第二章第八條、第三章及ヒ第二十六章第四條ハ此ノ限ニ在ラス

第二條 第一級船ノ外板ノ厚ハ舷側厚板、輕甲板舷側板及ヒ其ノ直下ノ外板竝ニ覆甲板舷側板ヲ除キ第二數四千二百以上一萬八千七百未滿ナルトキハ船ノ首尾ヲ通シテ外板一枚置ニ造船規程ニ定ムル厚ヨリ鐵ナルトキハ十六分ノ一吋、鋼ナルトキハ二十分ノ一吋ヲ減スルコトヲ得

第三條 此ノ規程ニ該當セサル船體ノ構造方法ハ檢査官吏ニ於テ此ノ規程ト同一ノ效力ヲ有スト認ムルトキハ此ノ規程ニ適合スルモノト看做ス

第四條 第三級船及ヒ第四級船ノ船體ノ構造及ヒ寸法ハ此ノ規程ニ適合セサルモノト雖モ檢査官吏ニ於テ適當ト認ムルトキハ此ノ規程ニ適合スルモノト看做ス

第五條 檢査官吏ハ造船規程第一編第二章第一條、第二條、第四條乃至第七條ニ規定セル試驗ニ合格セサル材料ト雖モ其ノ使用ノ方法及ヒ部局ヲ限リ條件ヲ附シテ之カ使用ヲ許可スルコトヲ得

附 則

此ノ規程ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十三年十二月遞信省令第九十號ハ此ノ規程施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

明治四十一年六月一日以前ニ進水シタル船舶ニシテ舊規程ニ合格スト認メラレタルモノハ此ノ規程施行後ト雖モ該規程ニ依ルコトヲ得

〇府令

臺灣總督府令第九號

臺灣保安林規則施行規則左ノ通相定ム

明治四十年三月九日 臺灣總督 子爵佐久間左馬太

臺灣保安林規則施行規則

第一條 地方廳ニ於テ保安林ヲ指定シ又ハ之ヲ解除スルノ必要アリト認ムルトキハ臺灣總督ニ具申スヘシ

直接利害ノ關係アル他ノ官廳又ハ人民ニ於テ前項ノ必要ヲ認ムルトキハ其ノ土地所轄ノ地方廳ヲ經テ臺灣總督ニ申請スルコトヲ得

第二條 保安林ノ指定ヲ爲スニハ土地臺帳登錄濟ノモノハ地番ノ異ナル每ニ實地調査ヲ行ヒ登錄未濟ノモノハ指定ヲ要スル區域ノ現地目ト其ノ狀況トニ就キ實地調査ノ上保安林指定調書及保安林地圖ヲ作製スルモノトス

第三條 保安林中一部ノ解除ヲ爲ス場合ニハ實地調査ヲ行ヒ保安林指定調書及保安林地圖ニ變更ヲ加フヘシ但シ時宜ニ依リ實地調査ヲ省略スルコトアルヘシ

第四條 保安林指定ノ爲實地調査ニ著手セムトスルトキハ區域ヲ定メ豫メ所轄地方廳及所在地ノ街庄社役場ニ揭示スヘシ

前項ノ揭示ヲ爲シタルトキハ之カ決定ニ至ルマテ其ノ區域內ニ於ケル木竹ノ伐採、樹根ノ採掘、開墾又ハ火入ヲ爲スコトヲ得ス

第五條 前條第一項ノ揭示ヲ爲シタルトキハ其ノ區域內ニ於ケル土石切芝ノ採取又ハ牛馬豚羊ノ放牧ヲ禁止若ハ制限スルコトアルヘシ

第六條 實地調査ノ爲必要アルトキハ土地ノ業主若ハ直接利害關係人ヲシテ立會ハシムルコトアルヘシ此ノ場合ニ於テ保安林調査員ハ期日ヲ定メ少ナクモ三日前ニ其ノ日時及場所ヲ告知スヘシ

前項ノ期日ニ立會ハサルトキハ官ノ認ムル所ニ依リ調査ヲ施行スルモノトス

第七條 實地調査ノ爲必要ナル處分ヲ爲スニ因リテ生シタル損害ニ對シテハ之カ賠償ヲ要求スルコトヲ得ス

第八條 保安林ノ指定及解除ハ府報ヲ以テ之ヲ告示シ竝所轄地方廳及所在地ノ街庄社役場ニ揭示シ且業主及其ノ他ノ土地關係人ニ告知ス

第九條 保安林ノ指定ヲ爲シタルトキハ四至境界適當ノ箇所ヲ選ヒ別記第一號樣式ノ標識ヲ建設ス

第十條 官有地ニ於ケル私木ノ森林ヲ保安林ニ指定シタルトキハ其ノ土地ノ貸付料ヲ免ス

第十一條 保安林ニ指定シタル官有地ニ造林セムトスル者ニハ無償ニテ之ヲ貸付ス

保安林中國土保安上危害ノ虞アリト認メタルトキハ業主ニ對シ造林及其ノ他必要ノ防備ヲ命スルコトアルヘシ

前項ニ依リ命令ヲ受ケタル事項ニ對シ業主之カ履行ヲ怠ルトキハ政府ニ於テ之ヲ行ヒ臺灣保安林規則第八條ノ例ニ依リ其ノ費用ヲ徵收シ又ハ其ノ造林ニ係ル部分ヲ部分林ト爲スコトヲ得

第十二條 地方廳ニ於テ臺灣保安林規則第五條乃至第八條ノ處分ヲ必要ト認ムルトキハ臺灣總督ニ具申スヘシ

第十三條 保安林ニ於テ土石切芝ノ採取、樹根ノ採掘、木竹ノ伐採又ハ牛馬豚羊ノ放牧ノ許可ヲ得ムトスル者ハ別記第二號及第三號樣式保安林ノ接續地ニ火入ノ認可ヲ受ケムトスル者ハ別記第四號樣式ニ依リ所轄地方廳ニ願書ヲ差出スヘシ

第十四條 火入ノ認可ヲ受ケタル者ハ所轄地方廳、支廳又ハ其ノ派出所ニ火入ノ日時ヲ屆出ヘシ

火入ヲ爲ストキハ延燒ヲ防ク爲當該官吏ノ命令ニ從ヒ相當ノ設備ヲ爲スヘシ

第十五條 土地臺帳ニ保安林指定地ノ業主權ノ登錄ヲ受ケタルトキ、保安林ヲ讓渡シ若ハ相續シタルトキ又ハ造林其ノ他ノ防備事業ヲ施行シタルトキハ所轄地方廳ヲ經テ臺灣總督ニ其ノ旨屆出ヘシ

第十六條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ十圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第四條第二項、第十四條第一項、第十五條ニ違背シタル者

二 第五條ノ禁止若ハ制限ニ違背シタル者

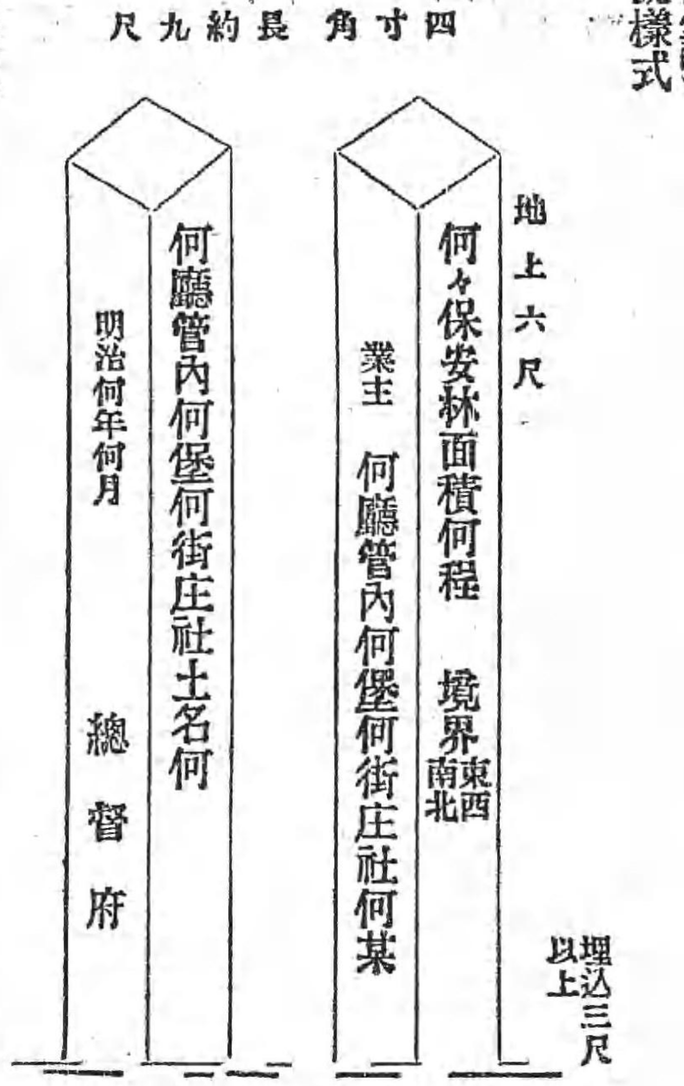
三 第十四條第二項ノ命令ニ違背シタル者

附 則

明治三十八年八月府令第六十五號臺灣保安林規則施行細則ハ之ヲ廢止ス

（別記）

第一號樣式



第二號樣式

保安林內土名（切芝）採取（牛馬豚羊放牧）願

何廳管內何堡何街庄社土名何

保安林面積 何程

一何採取（放牧）面積 何程 但一段步宛何程

何採取（放牧）數量 何程 但、、、、

計 數量 何程 （石ハ箇又ハ才數土及切芝ハ坪數）

一何採取（放牧）期限 許可ノ日ヨリ何日間

右保安林ニ於テ採取（放牧）致度候間御許可相成度別紙圖面ヲ添附シ此段奉願候也

年 月 日

何廳管內何堡何街庄社 願人 何 某

何廳管內何堡何街庄社 土地業主 何 某

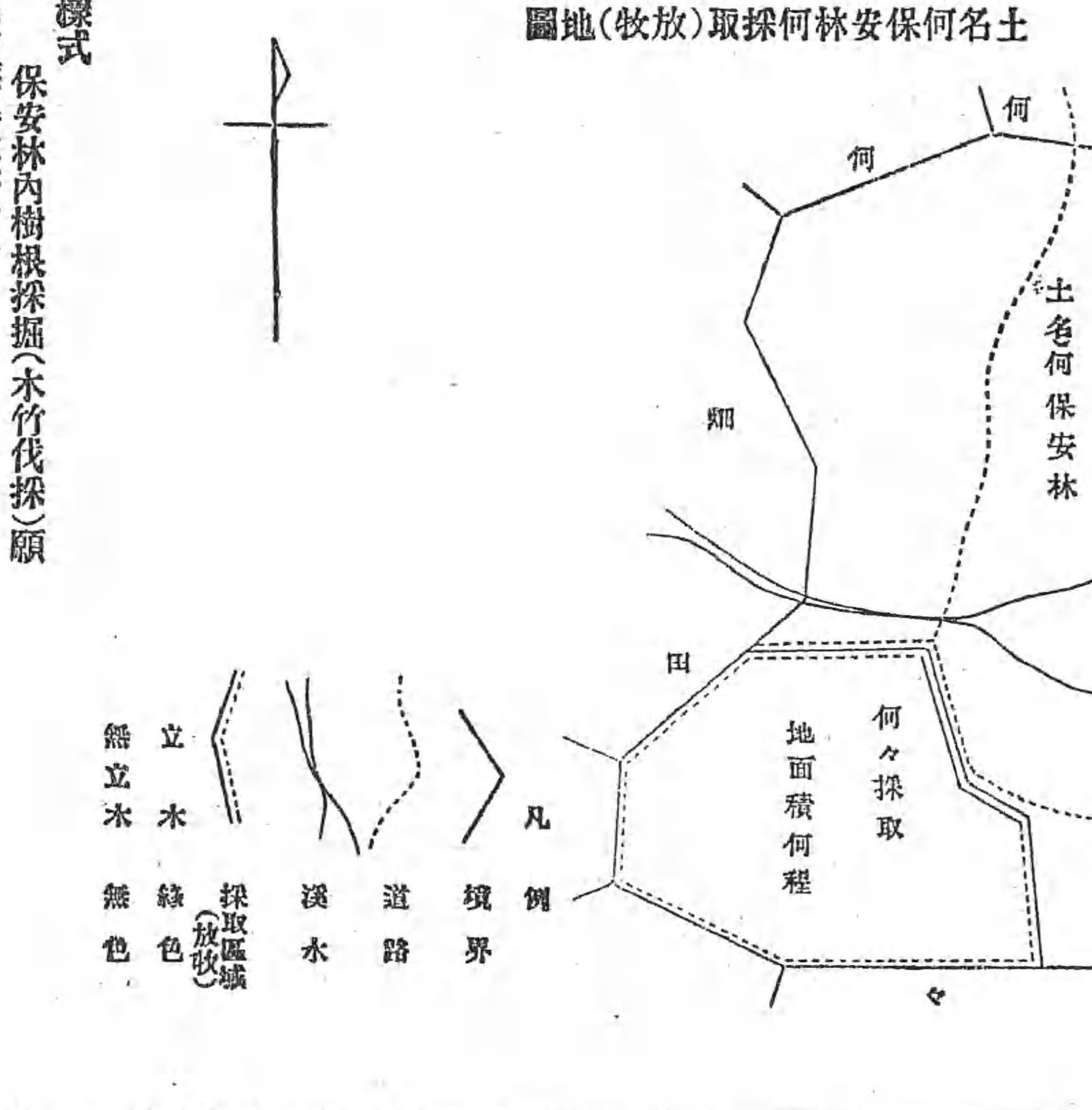
地元街庄社長 何 某

何廳長宛

第二號樣式ニ添附スヘキ圖面

何廳管內何堡何街庄社

土名何保安林何採取（放牧）地圖



第三號樣式

保安林內樹根採掘（木竹伐採）願

何廳管內何堡何街庄社土名何

保安林面積 何程

一何採掘（伐採）面積 何程 根株又ハ木竹ノ占領面積ノ合計ヲ揭クヘシ

何採掘（伐採）數量 何程 樹根ハ何樹根何本竹ハ何竹何本 損木ハ何樹枯損木何本此材積何石ト記シ生立木モ總テ此ノ例ニ依リ樹種本數材積ヲ記スヘシ

何採掘（伐採）數量 何程

計 數量 何程

許可ノ日ヨリ何日間
此證出期限
右保安林ニ於テ採掘（伐採）致度條條御許可相成度別紙圖面ヲ添附シ此段奉願候也
年　月　日

何廳長宛

第三號樣式ニ添附スヘキ圖面

何廳管內何堡何街庄社
願人　何　某
何廳管內何堡何街庄社
土地業主　何　某
地元街庄長　何　某

何廳管內何堡何街庄社土名何
何街庄社土名何山林伐採地採伐保安林圖

第四號樣式　保安林接續地火入願

何廳管內何堡何街庄社土名何山林（原野）其ノ他ノ地目面積何程ノ內一次入區域
右ハ何々ノ目的ヲ以テ何月何日ヨリ何月何日ニ至ル何日間ニ於テ火入致度候間御認可相成度別紙火入區域圖ヲ添附シ此段奉願候也
年　月　日

何廳長宛

第四號樣式ニ添附スヘキ圖面

何街庄社土名何

何廳管內何堡何街庄社
願人　何　某
何廳管內何堡何街庄社
土地業主　何　某
地元街庄長　何　某

何街庄社土名何保安林

（一四）

臺灣總督府令第十號

臺灣公學校學務委員規程左ノ通定ム

明治四十年三月十三日　臺灣總督　子爵佐久間左馬太

第一條　臺灣公學校學務委員規程

學務委員ハ各校三人以上九人以下トス

第二條　學務委員ハ其ノ學校設立區域內ノ住民中ヨリ廳長之ヲ命ス

第三條　學務委員ハ左ノ各號ノ事項ニ就キ廳長及公學校長ヲ補助シ又ハ其ノ諮問ニ應シテ意見ヲ陳述ス

一　就學及出席督促等ニ關スル事項

二　設備ニ關スル事項

三　豫算ニ關スル事項

四　基本財產ニ關スル事項

附則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

臺灣總督府令第十一號

明治三十九年五月府令第二十九號臺灣度量衡規則施行規則中左ノ通改正ス

明治四十年三月十四日　臺灣總督　子爵佐久間左馬太

第一條中度器ノ部形狀ノ欄「細帶狀」ヲ「細帶狀又ハ線狀」ニ同物質ノ欄「麻布」ヲ「麻ニ「衡器」ノ部(一)分銅中

線狀	同	一毛	二毛	五毛	
	（錢ヲ除ク）	二「ミリグラム」	二「ミリグラム」	五「ミリグラム」	
板狀	同	四分ノ一「グレーン」ヨリ二十分ノ一「グレーン」ニ至ル	一匁	二匁	五匁
		一「センチグラム」	二「センチグラム」	五「センチグラム」	
		二「デシグラム」	二「デシグラム」	五「デシグラム」	
	同	十「グレーン」ヨリ二分ノ一「グレーン」ニ至ル	一匁	二匁	五匁
	（錢ヲ除ク）		一「センチグラム」	二「センチグラム」	五「センチグラム」
			二「デシグラム」	二「デシグラム」	五「デシグラム」

ヲ

線狀	同	一毛	二毛	五毛	
	（錢ヲ除ク）	二「ミリグラム」	二「ミリグラム」	五「ミリグラム」	
又ハ板狀	同	四分ノ一「グレーン」ヨリ二十分ノ一「グレーン」ニ至ル	一匁	二匁	一分
		一「センチグラム」	二「センチグラム」	五「センチグラム」	
		二「デシグラム」	二「デシグラム」	五「デシグラム」	
	同	十「グレーン」ヨリ二分ノ一「グレーン」ニ至ル	一匁	二匁	一分
	（錢ヲ除ク）		一「センチグラム」	二「センチグラム」	五「センチグラム」
			二「デシグラム」	二「デシグラム」	五「デシグラム」

ニ

同(三)錘及增錘中錘重ノ欄「五十匁」ヲ「四十匁」ニ改ム

第二條中衡器ノ公差ノ部(三)錘重ノ公差錘重ノ欄「五十匁」ノ次ニ「四十匁」ヲ同公差ノ欄「八、〇」ノ次ニ「六、〇」ヲ加フ

第五條第四項ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ竹製卷尺ハ此ノ限ニアラス

第二十三條中「及重量」ヲ削ル

第三十五條ノ二　前條ノ期間內ニ賣下代金ヲ納付セサルトキハ其ノ擔保品ヲ公賣シテ賣下代金ニ充テ不足アルトキハ之ヲ追徵シ超過額ハ之ヲ還付ス

第五十九條第三中「第十一條第十二條」ヲ「第十二條第十三條」ニ改ム

臺灣總督府令第十二號

臺北公園管理規則左ノ通相定ム

明治四十年三月十九日　臺灣總督　子爵佐久間左馬太

臺北公園管理規則

第一條　臺北公園ハ臺北廳長之ヲ管理ス

第二條　臺北公園地內ニ於テ建造物ヲ設ケ又ハ其ノ他ノ目的ノ爲一定ノ地所ヲ使用セムトスル者ハ臺北廳長ニ願出ヘシ

第三條　前條ノ地所ヲ使用スル者ハ使用料ヲ納ムヘシ但シ公益ノ爲又ハ營利ヲ目的トセサル事業ノ爲使用スル者ニ對シテハ之ヲ免スルコトアルヘシ

第四條　使用ノ期限ハ五箇年ヲ超ユルコトヲ得ス其ノ滿期後繼續使用セムトスルトキ亦同シ

第五條　本令施行ニ關シ必要ナル規定ハ臺灣總督ノ認可ヲ得テ臺北廳長之ヲ定ムルコトヲ得

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前ヨリ臺北公園地內ノ地所ヲ使用スル者ハ本令施行ノ日ヨリ引續キ五箇年間之ヲ使用スルコトヲ得但シ第四條第二項ノ適用ヲ妨ケス

關東都督府令第十三號

滿洲內及滿洲韓國相互間發著ノ新聞電報ニ關シテハ明治三十九年遞信省令第六十一號新聞電報規則ヲ準用ス但シ同規則第二條第一項ニ金二十錢トアルハ金三十錢トシ共ノ第十五條ヲ除ク

本令ハ明治四十年三月十六日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十年三月十五日　關東都督　男爵大島義昌

許可 7121 号

第7121号 本文

○訓令

文部省訓令第二號

大臣官房會計課 直轄諸學校 帝國圖書館

明治四十年度當省所管學校及圖書館歲入歲出科目左ノ通定ム

明治四十年三月二十九日 文部大臣 牧野伸顯

明治四十年度文部省所管學校及圖書館歲入歲出豫算科目

歲入經常部

款	項	目	節
學校及圖書館			
	政府支出金		
		政府支出金	
		實業教員養成費支出金	
	諸收入		
		授業料	
			正科授業料
			撰科授業料
			別科授業料
			特別生授業料
			講習及聽講料
			附屬學校授業料
		入學料	
		檢定料	
		試驗料	
			入學試驗料
		利益金	
			有價證券利子
			預金利子
		寄宿料	
		土地家屋貸下料	
			土地貸下料
			家屋貸下料
		雜收入	
			物品拂下代
			物品貸下料
			患畜收入
			觀覽及閱覽料
			辨償金
			奏樂堂及樂器貸付料
			音樂演奏會入場料
			雜收
	實驗農場收入		
		生產物拂下代	
		雜收入	
			土地貸下料
			家屋貸下料
			物品拂下代
			雜收
	實驗製品收入		
		製品拂下代	
		雜收入	
			物品拂下代
			雜收
用途指定寄附金			
	用途指定寄附金		
		獎學費寄附	
		學校費寄附	
前年度繰入金			
	用途指定寄附支出殘金		
		獎學費寄附	
		學校費寄附	

歲入臨時部

款	項	目	節
[illegible]			
	政府支出金		
		政府支出金	
用途指定寄附金			
	用途指定寄附金		
		學校費寄附	

歲出經常部

款	項	目	節
學校及圖書館			
	俸給及諸給		
		事務官俸給	
			學校長
			館長
			司書館
			司書
			書記
		敎官俸給	
			敎授
			生徒監
			講座給
			敎諭
			助敎授
			助手
			助敎諭
			訓導
			保姆
		休職俸給	
		退官賜金	
		死亡賜金	
	廳費		
		備品費	
			器具
			機械
			圖書
			標本
			帳簿
			雜品
		印刷及製本費	
			印刷
			製本
		消耗品費	
			用紙
			筆墨印肉類
			薪炭油類
			雜用品
		實驗費	
			藥品材料及雜品
		通信運搬費	
			郵便電信料
			電話料

款	項	目	節
			運搬費
		家畜費	
			家畜買上代
			飼養料
		肥料購買費	
		種畜購買費	
		寄宿舍費	
			備品
			消耗品
		式日儀式費	
	學用患者費		
		學用患者費	
	音樂演奏會及生徒成績品展覽會費		
		音樂演奏會費	
			諸給
			印刷費
			雜費
		生徒成績品展覽會費	
			諸給
			印刷費
			雜費
	修繕費		
		各所修繕	
	死傷手當		
		死傷手當	
	賠償及訴訟費		
		賠償金	
		訴訟費	
	諸收入過誤納下戾		
		諸收入過誤納下戾	
	旅費		
		內國旅費	
		外國旅費	
	雜給及雜費		
		給與	
			特別生授業擔當敎官手當
			囑託手當及謝金
			補習生夜學授業擔當者手當
			贈與
			技術獎勵費
			慰勞金
		官吏療治料	
		雇員給	
		傭人料	
		被服費	
		雜費	
			謄寫料
			廣告料
			賄費
			家屋其他借料
			舟車馬類傭貸
			道路費
			給水料
			解剖體祭費
		地所公課	
	學生費		
		學費	
			給費
			食費
		生徒實地研究費	
		療養費	
		賞與	
	傭外國人諸給		
		俸給	
		旅費	
		手當	
	實驗農場		
		備品費	
			器具
			機械
			圖書
			帳簿
			雜品
		印刷及製本費	
			印刷費
		消耗品費	
			用紙
			筆墨印肉類
			薪炭油類
			雜用品
			農學機械修繕材料
		實驗費	
			藥品
			材料及雜品
		通信運搬費	
			郵便電信料
			電話料
			運搬費
		家畜費	
			家畜買上代
			飼養料
			家畜治療費
		開墾費	
		種子購買費	
		各所修繕	
		給與	
			囑託手當及謝金
			慰勞金
			農事獎勵費 學事獎勵費
		內國旅費	
		雇員給	
		傭人料	
		被服費	
		雜費	
			謄寫料
			廣告料
			賄費
			家屋其他借料
		死傷手當	
		地所公課	
	實驗製品費		
		實驗製品費	
			諸給
			器品費
			藥品及材料
			消耗品

○告示

内務省告示第三十五號

郡市ノ區域ニ依テ警察署管轄區域表中愛媛縣ノ部ニ左ノ通リ福島警察署ヲ追加シ明治四十年四月一日ヨリ施行ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

署名	管轄區域
福島警察署	信夫郡福島市

内務省告示第三十六號

東京府東京市本郷區湯川町一番地住
無籍外國人　フニオドル、ヤンセン
同　ニレナ、ヤンセン

右日本帝國ニ歸化ヲ允許セリ

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第三十七號

一明治四十年九月皇太一册ニ限リ定價三十錢ニテ長村光盛發行

右出版物ハ略本暦類似ト認ムルヲ以テ其ノ發行ヲ許ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第三十八號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第三十九號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第四十號

三重縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第四十一號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第四十二號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第四十三號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第四十四號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第四十五號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第四十六號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第四十七號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第四十八號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第四十九號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第五十號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第五十一號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第五十二號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第五十三號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第五十四號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第五十五號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第五十六號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第五十七號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第五十八號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第五十九號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第六十號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第六十一號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第六十二號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第六十三號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第六十四號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第六十五號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第六十六號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第六十七號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第六十八號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第六十九號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第七十號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第七十一號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第七十二號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第七十三號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第七十四號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第七十五號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第七十六號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第七十七號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第七十八號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第七十九號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第八十號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第八十一號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第八十二號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第八十三號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第八十四號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第八十五號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第八十六號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第八十七號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第八十八號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第八十九號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第九十號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第九十一號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第九十二號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第九十三號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第九十四號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第九十五號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第九十六號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第九十七號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第九十八號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第九十九號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第百號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第百一號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第百二號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第百三號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第百四號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第百五號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第百六號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第百七號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第百八號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第百九號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第百十號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第百十一號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第百十二號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第百十三號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第百十四號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第百十五號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第百十六號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第百十七號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第百十八號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第百十九號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第百二十號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第百二十一號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第百二十二號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第百二十三號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第百二十四號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第百二十五號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第百二十六號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第百二十七號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第百二十八號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第百二十九號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第百三十號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第百三十一號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第百三十二號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第百三十三號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第百三十四號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第百三十五號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第百三十六號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第百三十七號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第百三十八號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第百三十九號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第百四十號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第百四十一號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第百四十二號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第百四十三號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第百四十四號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第百四十五號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第百四十六號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第百四十七號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第百四十八號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第百四十九號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第百五十號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第百五十一號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第百五十二號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第百五十三號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第百五十四號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第百五十五號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第百五十六號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第百五十七號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第百五十八號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第百五十九號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第百六十號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第百六十一號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第百六十二號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第百六十三號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第百六十四號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第百六十五號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第百六十六號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第百六十七號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第百六十八號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第百六十九號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第百七十號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第百七十一號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第百七十二號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第百七十三號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第百七十四號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第百七十五號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第百七十六號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第百七十七號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第百七十八號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第百七十九號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第百八十號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第百八十一號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第百八十二號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第百八十三號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第百八十四號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第百八十五號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第百八十六號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第百八十七號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第百八十八號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第百八十九號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第百九十號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第百九十一號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第百九十二號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第百九十三號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第百九十四號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第百九十五號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第百九十六號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第百九十七號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第百九十八號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第百九十九號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第二百號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第二百一號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第二百二號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第二百三號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第二百四號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第二百五號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第二百六號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第二百七號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第二百八號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第二百九號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第二百十號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第二百十一號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第二百十二號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第二百十三號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第二百十四號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第二百十五號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第二百十六號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第二百十七號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第二百十八號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第二百十九號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第二百二十號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第二百二十一號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第二百二十二號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第二百二十三號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第二百二十四號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第二百二十五號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第二百二十六號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第二百二十七號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第二百二十八號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第二百二十九號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第二百三十號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第二百三十一號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第二百三十二號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第二百三十三號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第二百三十四號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第二百三十五號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第二百三十六號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第二百三十七號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第二百三十八號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第二百三十九號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第二百四十號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第二百四十一號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第二百四十二號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第二百四十三號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第二百四十四號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第二百四十五號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第二百四十六號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第二百四十七號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第二百四十八號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第二百四十九號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第二百五十號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第二百五十一號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第二百五十二號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第二百五十三號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第二百五十四號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第二百五十五號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第二百五十六號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第二百五十七號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第二百五十八號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第二百五十九號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第二百六十號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第二百六十一號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第二百六十二號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第二百六十三號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第二百六十四號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第二百六十五號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第二百六十六號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第二百六十七號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第二百六十八號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第二百六十九號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第二百七十號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第二百七十一號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第二百七十二號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第二百七十三號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第二百七十四號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第二百七十五號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第二百七十六號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第二百七十七號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第二百七十八號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第二百七十九號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第二百八十號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第二百八十一號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第二百八十二號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第二百八十三號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第二百八十四號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第二百八十五號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第二百八十六號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第二百八十七號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第二百八十八號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第二百八十九號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第二百九十號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第二百九十一號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第二百九十二號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第二百九十三號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第二百九十四號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第二百九十五號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第二百九十六號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第二百九十七號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第二百九十八號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第二百九十九號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第三百號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第三百一號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第三百二號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第三百三號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第三百四號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第三百五號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第三百六號

熊本縣地方監獄署ノ四囲ニ移ス

明治四十年三月二十九日　内務大臣　原敬

内務省告示第三百

本月二十五日遞信省告示第百七十一號第百七十五號及第百七十六號中「北海道鐵道管理局」ハ孰モ「北海道帝國鐵道管理局」ノ誤　遞信省參事官

同八日農商務省告示第四十二號一八〇頁上段二十三行「叙下」ハ「下叙」、同第四十三號一八一頁上段十五行榮末高夫ハ森末高夫ノ孰モ誤植

○敍任及辭令

明治四十年三月二十八日

敍高等官六等　正五位子爵　土屋正直
任式部官
陞敍高等官四等　公使館二等書記官從六位勳六等　丸毛直利
陞敍高等官四等　領事官從六位勳六等　瀨川淺之進
陞敍高等官四等　大使館二等書記官從六位勳五等　鄭永邦
陞敍高等官四等　領事從六位　上野季三郎
陞敍高等官四等　領事從六位　諸井六郎
陞敍高等官五等　領事正七位勳六等　高橋橘太郎
陞敍高等官五等　領事正七位勳六等　岩崎三雄
陞敍高等官五等　領事正七位　窪田文三
陞敍高等官六等　領事官補從七位　太田喜平
陞敍高等官六等　外交官補從七位　菊池義郎
陞敍高等官六等　領事官補從七位　吉田美利
任公使館二等書記官　公使館三等書記官正七位勳六等　矢田長之助
敍高等官五等
任大使館三等書記官　領事官補正七位　奧田竹松
敍高等官六等
任大使館三等書記官　外交官補正七位　松平恆雄
敍高等官六等
任大使館三等書記官　外交官補正七位　山中千之
敍高等官六等
任大使館三等書記官　領事官補正七位　永井松三
敍高等官六等
任大使館三等書記官　領事官補正七位　出淵勝次
敍高等官六等
任公使館三等書記官　外交官補正七位　古谷重綱
敍高等官六等
任公使館三等書記官　外務省翻譯官兼外務省參事官正七位　松田道一
敍高等官六等
任統監府鐵道管理局技師　鐵道技師兼遞信技師臨時鐵道國有準備局技師從五位勳六等　小城齊
敍高等官三等
任統監府鐵道管理局事務官　臨時鐵道國有準備局事務官兼鐵道事務官從六位　今藤慶四郎
敍高等官五等

依願免本官（三月二十八日内閣）　行政裁判所評定官　葛寬叢
侍從武官　井上良智
東宮武官　秋澤芳馬
（各通）
海軍水雷術練習所及海軍機關術練習所ヘ被差遣（三月二十八日宮內省）
大藏省臨時建築部技師　森垣龜一郎
上京ヲ命ス（三月二十八日大藏省）

愛媛縣西宇和郡神山村大字五反田一番耕地二百五十三番地　東フジ
故陸軍歩兵一等卒東品太郎明治三十七八年戰役ノ功ニ依リ特ニ金四百七拾圓ヲ賜フ

香川縣三豐郡柞田村乙子四百十七番地　山上ハル
故陸軍歩兵一等卒山上甚太郎明治三十七八年戰役ノ功ニ依リ特ニ金四百七拾圓ヲ賜フ

東京府荏原郡品川町大字南品川獵師町二十四番地　櫻井よね
故操車係櫻井新之祐明治三十七八年戰役ノ功ニ依リ特ニ金四百八拾五圓ヲ賜フ

新潟縣北蒲原郡水原町大字水原四千百七十八番地　小林ヨシ
故陸軍輜重兵特務曹長小林慶次郎明治三十七八年戰役ノ功ニ依リ特ニ金四百參拾圓ヲ賜フ

大阪市東區廣小路町二十四番地　松村ウノ
故陸軍歩兵上等兵松村勝次郎明治三十七八年戰役ノ功ニ依リ特ニ金貳百六拾圓ヲ賜フ

福岡縣糸島郡波多江村大字池田六百十三番地　波多江カ子
故陸軍歩兵一等卒波多江芳太郎明治三十七八年戰役ノ功ニ依リ特ニ金貳百四拾圓ヲ賜フ

廣島縣御調郡三原町大字三原千五百三十六番邸　船木保藏
故陸軍歩兵一等卒船木末槌明治三十七八年戰役ノ功ニ依リ特ニ金貳百四拾圓ヲ賜フ

宮城縣牡鹿郡石巻町石巻住吉町十七番地　平塚茂八
故陸軍歩兵二等卒平塚德三明治三十七八年戰役ノ功ニ依リ特ニ金貳百貳拾圓ヲ賜フ

島根縣美濃郡眞砂村大字下波田六十一番地　齋藤增藏
故陸軍輜重輸卒齋藤兼太郎明治三十七八年戰役ノ功ニ依リ特ニ金貳百貳拾圓ヲ賜フ

茨城縣筑波郡吉沼村二百八十八番一號　塚本さの
故陸軍輜重輸卒塚本爲次郎明治三十七八年戰役ノ功ニ依リ特ニ金貳百貳拾圓ヲ賜フ

大阪市北區龍田町十七番地　平野由江
故陸軍省雇員平野研藏明治三十七八年戰役ノ功ニ依リ特ニ金百參拾五圓ヲ賜フ

福井縣敦賀郡敦賀町敦賀幸三十五番地　大澤みよ
故陸軍歩兵一等卒大澤由松明治三十七八年戰役ノ功ニ依リ特ニ金百貳拾圓ヲ賜フ

(110)

大阪市南區難波稻荷町二丁目九百五十七番地　宮本ユキノ
故陸軍砲兵一等卒宮本政太郎明治三十七八年戰役ノ功ニ依リ特ニ金百貳拾圓ヲ賜フ

埼玉縣北埼玉郡忍町大字行田百九十五番地　齊藤伊三郎
故陸軍砲兵二等卒齊藤林之助明治三十七八年戰役ノ功ニ依リ特ニ金百拾圓ヲ賜フ

巖手縣氣仙郡高田町二百四十三番戶　新沼カホル
故陸軍砲兵二等卒新沼文藏明治三十七八年戰役ノ功ニ依リ特ニ金百拾圓ヲ賜フ

香川縣香川郡一宮村大字一宮七十六番戶　大森ヤイ
故陸軍歩兵二等卒大森房吉明治三十七八年戰役ノ功ニ依リ特ニ金百拾圓ヲ賜フ

山口縣豐浦郡瀧部村二百九十三番屋敷　中山禎祐
故陸軍歩兵二等卒中山兵太郎明治三十七八年戰役ノ功ニ依リ特ニ金百拾圓ヲ賜フ

青森縣西津輕郡舞戶村字北禿百三十九番地　田附尾次
故陸軍砲兵輸卒田附權太郎明治三十七八年戰役ノ功ニ依リ特ニ金百拾圓ヲ賜フ（以上三月二十七日陸軍省）

免本職補歩兵第二十七聯隊中隊長　歩兵第二十七聯隊副官陸軍歩兵大尉　近藤久次郎
免本職補歩兵第二十七聯隊大隊副官　歩兵第二十七聯隊附陸軍歩兵中尉　山木多利治
免本職補近衞歩兵第三聯隊附　歩兵第四十九聯隊附陸軍歩兵少尉　村尾政太郎
免本職補歩兵第四十九聯隊附　近衞歩兵第三聯隊附陸軍歩兵少尉　佐藤豁
免本職補歩兵第一聯隊附　歩兵第四十九聯隊附陸軍歩兵中尉　大野肅寬
歩兵第一聯隊附被免　陸軍歩兵少尉　野崎齊三
補歩兵第四十九聯隊附　陸軍歩兵少尉　野崎齊三
（各通）　陸軍歩兵少尉　北神愛吉
陸軍歩兵少尉　田原惣助
補歩兵第四十五聯隊附　陸軍騎兵少尉　森正男
騎兵第六聯隊附被免　陸軍騎兵少尉　森正男
補騎兵第十八聯隊附　陸軍工兵大尉　梅澤修平
關東兵器廠廠員被免　陸軍工兵大尉　梅澤修平
補東京灣要塞司令部部員　陸軍砲兵大尉　藤井靜也
關東兵器廠廠員被免長崎要塞砲兵大隊附被仰付　陸軍輜重兵大尉　和田實藏
關東兵器廠廠員被免輜重兵第九大隊附被仰付　陸軍砲兵大尉　藤好道生
永興灣要塞副官被免下關要塞砲兵聯隊附被仰付　陸軍砲兵大尉　崎元岩熊
永興灣要塞司令部部員被免東京灣要塞砲兵聯隊附被仰付　陸軍騎兵少尉　崎山作治
關東軍馬補充所所員被免騎兵第十一聯隊附被仰付

免本職補輜重兵第七大隊附　輜重兵第七大隊中隊長陸軍輜重兵大尉　小島德貞
免本職補輜重兵第七大隊中隊長　輜重兵第七大隊副官陸軍輜重兵大尉　八角高次
免本職補輜重兵第七大隊副官　輜重兵第七大隊附陸軍輜重兵中尉　佐藤福藏
陸軍三等主計正　青木精吉
陸軍三等主計正　桐原集一
陸軍三等主計　門松善太郎
（各通）
野戰鐵道提理部附被免第一師團經理部附被仰付
陸軍二等主計　近松菊之助
陸軍三等主計　鵜飼英
（各通）
野戰鐵道提理部附被免第三師團經理部附被仰付
陸軍三等主計　林菊太郎
陸軍三等主計　酒井金三郎
（各通）
野戰鐵道提理部附被免第四師團經理部附被仰付
野戰鐵道提理部附被免第六師團經理部附被仰付　陸軍三等主計　兒玉合十郎
野戰鐵道提理部附被免第八師團經理部附被仰付　陸軍三等主計　飯田佐之助
野戰鐵道提理部附被免第十師團經理部附被仰付　陸軍三等主計　平野悌吉
野戰鐵道提理部附被免第十二師團經理部附被仰付　陸軍三等主計　伊東新之丞
野戰鐵道提理部附被免　陸軍三等主計　野口勝資
補第十五憲兵隊附　陸軍三等主計　野口勝資
免本職第十二師團經理部附被仰付　第十五憲兵隊附陸軍三等主計　江島藤次郎
臺南衞戍病院附兼臺灣守備混成第二旅團司令部附陸軍一等軍醫　向井淺三郎
臺灣守備歩兵第三大隊附陸軍一等軍醫　中神大次郎
（各通）
歩兵第二十一聯隊附陸軍一等軍醫　澁川胸太郎
近衞歩兵第三聯隊附陸軍一等軍醫　中川鍘次郎
歩兵第二十五聯隊附陸軍歩兵少尉　阿部董
休職被仰付　輜重兵第十六大隊附陸軍一等獸醫　日高久壽
停職被仰付（以上三月二十八日同）
海軍水路大監　荒畑岩次郎
海軍大尉　大井五郎
海軍水路中技士　大谷志善
（各通）
測量ノ爲メ松江乘組被仰付
海軍水路中監　値賀寬
海軍水路中技士　藤城國雄
（各通）
測量ノ爲メ葛城乘組被仰付（以上三月二十八日海軍省）
四級俸下賜　司法大臣秘書官　原田十衞
補大阪區裁判所判事　奈良地方裁判所判事　野澤三郎
大阪地方裁判所判事　森田庄藏
（各通）
兼補大阪區裁判所判事　大阪地方裁判所判事　川島常三郎

(111)

第7121号 本文

（各通）

四級俸下賜
七級俸下賜
八級俸下賜（以上十三月二日司法省）

學術實地指導ノ爲神奈川靜岡ノ兩縣下ヘ出張ヲ命ス（十三月二日東京帝國大學）

（各通）

東京勸業博覽會審査官ヲ命ス

（各通）

東京勸業博覽會審査官ヲ囑託ス（以上十三月五日農商務省）

大審院檢事檢事　末弘巖石
東京地方裁判所檢事檢事　入江貞之

大阪區裁判所判事判事　野澤三郎
奈良地方裁判所判事判事　岡本正夫
東京帝國大學農科大學助教授　久保健磨

農商務省參事官　岡實
農商務書記官　別府丑太郎

警視廳警察醫長　栗本庸勝
河原德立

農商務技師理學博士　西川勝藏
農商務技師　大塚專一
農事試驗場技師　恩田鐵彌
農事試驗場技師　今西直次郎
生絲檢查所技師　本多岩次郎
蠶業講習所技師　細井岩彌
鑛山監督署技師　加賀山辰四郎
農商務技師　小林房次郎
農事試驗場技師　大林雄也
農事試驗場技師　堀正太郎
農事試驗場技師　山下脇八
農事試驗場技師　大工原銀太郎
農事試驗場技師　小貫信太郎
農事試驗場技師　今關常次郎
農事試驗場技師　內山定一
工業試驗所技師　小寺房治郎
特許局審査官　湯淺藤市郎
特許局審査官　富田忠詮
農商務技師　柁川溫
農商務技師　伊藤悌藏
農商務技師　月田藤三郎
農商務書記官　山脇春樹
山林技師　宮島多喜郎
農商務技師　望月瀧三
山林技師林學博士　白澤保美
山林技師　望月常
農事試驗場技師　安藤廣太郎
蠶業講習所技師　辻暢太郎
特許局審査官　一川

工業試驗所技師　三山喜三郎
農商務技師　小西正二
農商務技師　樋口眷一
農事試驗場技師　伊東一二
工業試驗所技師　高松德治郎
花莚檢查所技師　杉山眞後
農商務技師　有働眞夫
農商務技師　橫山正夫
特許局審査官　押田翼
蠶業講習所技師　驛作
農商務技師　莊司市太郎
蠶業講習所技師　石居一郎
水產講習所技師　伊谷以知二郎
農商務技師　橘川司亮
農商務省商品陳列館技師　笠原吉太郎
農商務技師　十時元
水產講習所教授理學博士　岡村金太郎
特許局審査官　山越八郎
蠶業講習所技師　土屋泰
農事試驗場技師　石崎芳吉
農事試驗場技師　小林正旭
農事試驗場技師　加藤助熊
農商務技師　加藤戒一
工業試驗所技師　滿丸
工業試驗所技師　辻本
工業試驗所技師　山村鋭吉
工業試驗所技師　林尾秀實
水產講習所技師　今關常次郎之助
農商務技師　田子勝彌
水產講習所教授　崎田弘
農商務技師　內山定一
工業試驗所技師　小寺房治郎
特許局審査官　湯淺藤市郎
特許局審査官　富田忠詮
農商務技師　柁川溫
農商務技師　伊藤悌藏
農商務技師　月田藤三郎
農商務書記官　山脇春樹
山林技師　宮島多喜郎
農商務技師　望月瀧三
山林技師林學博士　白澤保美
山林技師　望月常
農事試驗場技師　安藤廣太郎
蠶業講習所技師　辻暢太郎
特許局審査官　一川

東京勸業博覽會審査官ヲ命ス

東京帝國大學醫科大學教授藥學博士　下山順一郎
東京帝國大學醫科大學教授藥學博士　丹波敬三
東京帝國大學工科大學教授工學博士　三好晉六郎
京都帝國大學理工科大學教授理學博士　村岡範爲馳
商船學校長　平山藤次郎
東京帝國大學工科大學教授工學博士　中野初子
東京高等師範學校教授　後藤牧太
內務技師工學博士　近藤虎五郎
東京高等工業學校教授工學博士　阪田貞一

東京帝國大學理科大學教授理學博士　神保小虎
東京帝國大學工科大學教授工學博士　中的場
東京帝國大學農科大學教授林學博士　川瀨善太郎
東京帝國大學工科大學教授工學博士　井口在屋
東京帝國大學工科大學教授工學博士　鐵道作業局部長　畑精吉郎
東京帝國大學工科大學教授工學博士　山川義太郎
東京帝國大學工科大學教授工學博士　中山秀三郎
京都帝國大學理工科大學教授工學博士　大塚要
中央氣象臺技師理學博士　中村精男
千住製絨所長工學博士　大竹多氣
女子高等師範學校教授　篠田利英
東京高等工業學校教授　吉武榮之進
東京高等工業學校教授　守屋物四郎
鐵道技師　田中富士太
遞信技師　玉木辨太郎
東京帝國大學醫科大學教授醫學博士　近藤次繁
大藏技師　奥健藏
文部省視學官　野尻精一
東京帝國大學農科大學教授林學博士　下瀨雅允
東京帝國大學教授林學博士　河合鈰太郎
東京帝國大學工科大學教授　小泉又一
東京帝國大學工科大學教授工學博士　江守襄吉郎
御料局技師　江崎政忠
大藏省臨時建築部技師　矢橋賢吉
東京高等師範學校教授　山崎直方
東京高等工業學校教授　滋賀重列
東京盲啞學校長　小西信八
東京高等師範學校教授　坪井玄道
女子高等師範學校教授　中村五六
印刷局技師　佐伯勝太郎
東京帝國大學工科大學教授工學博士　俵國一
東京高等工業學校教授　奧村順四郎
東京帝國大學醫科大學教授醫學博士　木下正中
印刷局技師　內田萬次郎
文部省視學官　大島義脩
大藏技師　笠原次郎作
新潟縣技師　吉川祐輝
東京帝國大學農科大學助教授　三村鐐三郎
東京帝國大學農科大學助教授　諸戶北郎
文部省視學官農學博士　澤村眞
京都高等工藝學校教授　鶴巻鶴一
東京高等工業學校教授　根岸攻一
衛生試驗所技師　慶松勝左衛門
東京帝國大學工科大學助教授　田中不二
茨城縣技師　竹下直次郎
大藏技師　西村寅三
東京府技師　作間餘三郎
醸造試驗所技師　佐藤壽衛
市川之雄
內苑局技師　幣原坦
文部省視學官文學博士　森田櫟一郎
福島縣工業試驗所技師　安藤福三郎
醸造試驗所技師　嘉儀金一郎
東京高等工業學校教授　河津七郎
東京高等工業學校教授　齋藤俊吉
東京高等工業學校教授　淺川權八
東京高等工業學校教授　豐丸勝二
東京市技師長工學博士　日下部辨二郎
愛知縣立工業學校長　柴田才一郎
奈良縣立工業學校長　高田吉親
福島縣立工業學校長　下山又次郎
東京府立職工學校長　今泉彦
東京府立織染學校長　早崎龜壽
群馬縣工業試驗所技師　渡邊季吉
群馬縣立織物學校教授　岩下龍太郎
山梨縣工業試驗所技師　河口孝
德島縣立工業學校長　吉田佐次郎
京都陶磁器試驗場技師　藤江永孝
從四位工學博士　大島道太郎
正五位理學博士　鈴木敏
從五位醫學博士　三島通良
從六位　石原卯八
正七位　今村長賀
正七位工學博士　曾根達藏
正七位　池田謙藏
勳六等工學博士　進經太
早川龍介
丹羽圭介
肥田密三

東京帝國大學藏書

第7121号 本文

長野宇平治
東京勸業博覽會審査官ヲ囑託ス
農商務技師 樋口眷一
第九回關西府縣聯合共進會出品紙及其製品審査官トシテ三重縣ニ出張ヲ命ス(以上三月二十六日同)
東京帝國大學農科大學敎授理學博士 佐々木忠次郎
東京帝國大學法科大學敎授法學博士 山崎覺次郎
(各通)
東京勸業博覽會審査官ヲ囑託ス(三月二十七日同)
群馬縣師範學校敎諭 新井儲藏
十級俸下賜但當分年俸七百貳拾圓下賜
群馬縣立太田中學校敎諭 細谷資文
九級俸下賜但當分年俸八百四拾圓下賜
群馬縣立太田中學校敎諭 阿部德三眞
十級俸下賜但當分年俸七百五拾圓下賜(以上三月二十七日群馬縣)
廣島縣立廣島中學校敎諭 深川通
休職ヲ命ス(三月二十三日廣島縣)
宮崎縣農業技師 三田啓五郎
年俸千圓下賜(三月十四日宮崎縣)

○宮廷錄事

○帶宮周宮御歸京　昌子内親王房子内親王兩殿下ハ明三十日午前九時四十分國府津發汽車ニテ午後零時十七分新橋御著御歸京アラセラルヘキ旨御治定相成リタリ

○皇族發著　威仁親王殿下ハ第一第二艦隊及旅順鎭守府特命檢閲ノタメ本月二十六日御出發アラセラレタリ

○彙報

○官廳事項

○官吏發著　御料局名古屋支廳長磯山簾居ハ本月二十五日上京●東園侍從ハ昨二十八日出發京都ヘ出張セリ

長崎稅務監督局在勤稅務監督局事務官吉田作太郎ハ一昨二十七日上京セリ

議ニ上京ノ西島第六師團長ハ本月二十三日、山形市ヘ出張ノ川村歩兵第十六旅團長ハ同二十四日孰モ歸著●田村騎兵第二旅團長ハ騎兵第十五聯隊六泊野外演習視察ノタメ茨城縣地方ニ向ヒ、津川歩兵第八旅團長ハ歩兵第四十聯隊第一期檢閲視察ノタメ姬路ヨリ鳥取地方ニ向ヒ同二十五日、小原歩兵第十五旅團長ハ歩兵第三十聯隊第一期檢閲視察ノタメ新潟縣村松ニ向ヒ一昨二十七日、山田陸軍戶山學校長ハ同校戰術科學生竝ニ敎導大隊野營演習實視ノタメ千葉縣習志野原地方ニ向ヒ昨二十八日孰モ出發セリ

滋賀縣外三縣ヘ出張ノ文部省視學官大島義脩ハ本月二十五日歸京セリ

愛媛縣事務官和田健兒ハ一昨二十七日上京セリ

判決

○特許局審決　尾崎大九郎ヨリ石岡廉太郎ニ對シ特許番號第八〇五六號石油瓦斯燃燒器ノ特許ヲ無效トスルタメ審判請求事件ニ付キ本月二十五日特許局ニ於テ左ノ如ク審決セリ

第一〇二〇號

審決書

東京府南葛飾郡龜戶町三千六十三番地
請求人 尾崎大九郎
東京市本所區番場町四十三番地
被請求人 石岡廉太郎

右尾崎大九郎ヨリ石岡廉太郎ニ對シ特許番號第八〇五六號石油瓦斯燃燒器ノ特許ヲ無效トスル爲メ審判ヲ請求シタルニ依リ審理ヲ遂クル處

請求人申立ノ要領ハ本件特許第八〇五六號石油瓦斯燃燒器ノ特許證主タル被請求人ハ特許法第一條第一項ニ所謂最先ノ發明ヲ爲シタル者若ハ其ノ承繼人ニアラスシテ同法第二十條第一號ニ該當スルモノナルヲ以テ該特許ハ之ヲ無效トスト審決アランコトヲ請求ス其理由ハ前記特許品ノ發明ハ請求人ノ創案意匠ニ係ルモノニシテ其ノ起元ハ殆ント十年以前ニアルコト知友ノ皆知ルトコロナリ明治三十六年夏季始メテ小形ノ燃燒器ヲ試製試用シタリ其後被請求人外一名ヲ共同者トナシ之レカ研究ヲ爲シタルモ共同者ノ行動カ發明者タル請求人ノ苦心ト竝行セス斯業ノ成功ヲ期スヘキ著實ノ順路ニ反スルヲ以テ終ニ相互間ニ締結セシ契約ヲ解除スルニ至レリ爾來請求人ハ尙ホ發明ノ缺點ヲ完成センコトヲ欲シ試用工夫茲ニ一年有半ヲ經過シ此間從來ノ發明ニ對シ友人ノ勸告ニ遵ヒ明治三十七年六月十五日出願番號第二八〇五四號ヲ以テ特許出願ヲ爲シ翌七月十五日附見本提出ノ下命ヲ受ケタルモ請求人ノ否運ナル情態ハ活路ニ彷徨シ餘力ノ以テ意ヲ成スニ足ルモノナク終ニ出願ヲシテ無效ニ歸セシメタリ然ルニ嚢キニ共同者ノ一人タリシ被請求人ハ曾テ請求人カ見本トシテ製作シ被請求人ノ手許ニ保留シアリタル發明品ノ模型ニ據リ敢テ輕重ヲ論スルニ足ラサル一二ノ變更ヲ加ヘ被請求人ノ名ヲ以テ明治三十七年八月二十三日附特許ヲ出願シ同年十一月三十日特許ヲ得タルノ事實ナリ而シテ被請求人カ請求人ノ發明ニ對シ變更ヲ加ヘタル點ハ第一覆板ノ中央ニ 塞子ヲ 螺著シタルト 第二皿狀ニ凹陷セル瓦斯發生室ノ底ニ數箇ノ鐵條ヲ竝列シタルト及第三噴出孔口部ニ著シキ凹狀ヲ形成シタルノ外構造ノ要素ニ於テ毫モ相違ノ點アルヲ見ス其ノ效果ノ如キモ構造變更ヨリ來ルモノ甚タ尠ナク請求人發明ノモノニ對シ敢テ輕重スルトコロナキモノトス要スルニ被請求人ハ本件特許品ノ發明者若ハ其ノ承繼人ニアラス虛僞ノ申請ニ由テ不正ニ權利ヲ取得シタルモノナリト云フニアリテ其ノ主張ヲ確ムル爲メ甲第一號證及甲第二號證ヲ提出セリ

被請求人答辯ノ要旨ハ請求人申立相立タスト審決ヲ請フ其ノ理由ハ請求人カ明治三十七年六月十五日附ヲ以テ特許ヲ出願セル願書番號第二八〇五四號ノ明細書及圖面ト被請求人ノ發明ニ係ル第八〇五六號特許ノ附屬明細書及圖面トヲ對照スレハ彼我考案ノ相違ハ一目瞭然タルモノナリ請求人ノ發明ナリト稱スル燃燒器(乙第一號證)ハ遠キ以前ヨリ已ニ公知公用ニ屬シタル乙第二號證ノ特許燃燒器(鬪商標)ト構造ノ要點ニ於テ毫モ相違スルトコロ無キモノナルヲ以テ之ヲ請求人ノ發明トナスヲ得サルモノナリ 請求人考案ノ燃燒器ハ乙第二號證ノ鬪印燃燒器ト等シク共ニ覆板ハ空道ナルヲ以テ重油ヲ使用スル場合ハ之ヲ充分ニ氣化スルコト能ハサルモノニシテ請求人ハ嘗テ被請求人宅ニ於テ乙第一號證請求人考案ノ燃燒器ニ重油ヲ 使用實驗セルニ黑烟ヲ發シ重油ノ使用ハ到底不可能ナルヲ證セリ然ルニ被請求人ノ燃燒器ニハ覆板中央ニ 數箇ノ鐵條ヲ設ケ第一、第二、第三、第四室ト區別シアルハ之レ完全ナル氣化室ヲ構成シ覆板ノ全部ヲ堅固ナラシムルト同時ニ傳熱面積ヲ增大シタルヲ以テ氣化作用ヲ敏活ナラシメ重油ノ如キモ完全ニ燃燒シ得ルニ至レリ又請求人ノ覆板及其ノ全部ノ接合部ノ悉皆鑞付ニテ成リタルヲ以テ本器ノ如キ强熱ニ逢ヒ且内壓ノ變化甚タシキモノアリテハ長キ使用ニ堪ヘサルモ被請求人ノ燃燒器ハ全部堅固ナル鐵鑄物ニシテ之ニ附著スル部分ハ悉ク螺旋ヲ以テ取付ケタルカ故ニ決シテ破損スル憂ナシ其他被請求人ノ燃燒器ニ於テ覆板上面ニ螺旋ヲ設ケ臨機ニ内部ノ狀況ヲ探見スルノ便ニ供シタルト瓦斯噴出口ノ構造等請求人ノ考按器ニ見サルトコロナリ故ニ被請求人ノ燃燒器ト請求人ノ燃燒器トハ發明要點ヲ異ニスルモノナリト云フニアリテ乙第一號證及乙第二號證ヲ提出セリ

仍テ本件ニ關スル一切ノ書類及證據ヲ査閲シ審決ノ理由ヲ說明スルコト左ノ如シ

請求人カ特許第八〇五六號石油瓦斯燃燒器ノ無效ヲ主張スル理由ハ本件特許ハ請求人ノ創意發明セ

ルモノヲ被請求人ニ於テ之ニ輕微ナル變更ヲ加ヘ自己ノ發明ナリトシテ特許ヲ出願シタルモノニシテ被請求人ハ本件特許ノ最先發明者又ハ其ノ繼承人ニアラサルヲ以テ 特許法第二十條第一號ニ該當スト云フニアリ依テ請求人ノ明治三十七年六月十五日附特許願ニ添付セル明細書竝ニ圖面ト被請求人ノ特許第八〇五六號ノ明細書及圖面トヲ對照審案スルニ石油瓦斯燃燒器ニ於テ蓄油室ノ石油ヲ空氣ノ壓力ニ依リ石油輸送管ヲ經テ上部皿狀ノ氣化室ニ送リ火熱ニ依リテ瓦斯化セシメタル後瓦斯輸送管ヲ通シテ瓦斯噴出口ヨリ噴出スル瓦斯ニ點火燃燒スルノ考案ハ兩者同一ナルモ斯ノ如キハ在來ノ石油瓦斯燃燒器ニ於テ普通ノ考案ニシテ共ニ新規ニアラス而シテ其構造ニ於テ請求人ノ發明トスルトコロハ臨ノ下部ニ水ヲ入レ置クコト石油輸送管ト瓦斯輸送管トヲ共ニ一筋ニナシタルコト、石油輸送口ト瓦斯噴出口トヲ同一大サニナシタルコト及上部氣化室下面ニ突起(イ)ヲ設ケタルコト等ニシテ被請求人ノ發明トスルトコロハ要スルニ凸隆セル周緣(タ)ノ内部凹孔(レ)ヲ形成シテ其ノ中心ニ噴出孔(ソ)ヲ設ケタル噴出口ト皿狀ニ凹陷セル底ニ數箇ノ鐵條(ム)(ム)等ヲ竝列シ瓦斯導入管(ヌ)ノ上端ノ周圍ニ遮壁(ウ)ヲ設ケ覆板ノ中央ニ塞子(ラ)ヲ螺著セル瓦斯發生室(カ)等ニアリテ彼是其ノ發明要旨ヲ異ニスルモノト云ハサルヘカラス故ニ請求人ノ創意ニ係ルモノト被請求人ノ特許第八〇五六號ノ發明トハ各別異ノモノト認メ得ヘキヲ以テ特許法第二十條第一號ニ該當セサルモノトス其ノ他雙方ニ於テ陳辯スルトコロアルモ審決ニ必要ナキヲ以テ說明ヲ加ヘス

右ノ理由ニ依リ審決スルコト左ノ如シ

請求人申立相立タス

明治四十年三月二十五日於特許局

審判長 特許局事務官 中松盛雄
特許局技師 鈴木千代吉
特許局事務官 奧山萬次郎

司法及警察

○辯護士名簿登錄取消　靜岡地方裁判所所屬辯護士小竹篠之助ノ請求ニ依リ本月二十五日所屬裁判所檢事局ニ於テ辯護士名簿ノ登錄ヲ取消セリ

○豫戒命令執行　山梨縣ニ於テ本月二十三日左ノ通豫戒命令ヲ執行セリ

神奈川縣足柄下郡下中村字小船六百三十九番地平民金藏弟當時山梨縣北巨摩郡韮崎町寄留請負業 早野吉藏 明治元年四月二十一日生
豫戒令第一條第三號ニ該當ニ付キ同令第二條第二號第三號ヲ命令ス

山梨縣北巨摩郡龍岡村百十八番戶平民請負業 橫内囑藏 明治八年九月十六日生
同上

○陸海軍

○蹄鐵術卒業　野戰砲兵第十一聯隊ニ於テハ本月二十一日、騎兵第九聯隊ニ於テハ同二十五日、近衞野戰砲兵聯隊ニ於テハ一昨二十七日左記ノ者ニ各、蹄鐵術卒業證書ヲ付與セリ(陸軍省)

野戰砲兵第十一聯隊

愛媛縣平民 砲兵一等卒 結田周吉
愛媛縣平民 砲兵一等卒 世良彬一
香川縣平民 砲兵一等卒 高島太郎
高知縣平民 砲兵一等卒 寺川國政
愛媛縣平民 砲兵一等卒 土居松太郎
德島縣平民 砲兵一等卒 山下光繼
高知縣平民 砲兵一等卒 西野松兒
愛媛縣平民 砲兵二等卒 篠田正一
高知縣平民 砲兵二等卒 吉岡柳馬
香川縣平民 砲兵二等卒 山下眞吾
高知縣平民 砲兵二等卒 西岡與之助
高知縣平民 砲兵一等卒 西岡道之助
德島縣平民 砲兵二等卒 淸重榮三郎

騎兵第九聯隊

石川縣平民 騎兵一等卒 北村四郎平
岐阜縣平民 騎兵一等卒 長尾喜八
岐阜縣平民 騎兵二等卒 加納大治
岐阜縣平民 騎兵二等卒 高岡文吉
石川縣平民 騎兵二等卒 伊田政一
岐阜縣平民 騎兵二等卒 安江孝一
岐阜縣平民 騎兵二等卒 橫山新次郎
富山縣平民 騎兵二等卒 中村彌吉
富山縣平民 騎兵二等卒 元井吉太郎
富山縣平民 騎兵二等卒 柴野常次郎
石川縣平民 騎兵一等卒 小島榮吉
岐阜縣平民 騎兵二等卒 日比野繁一
岐阜縣平民 騎兵二等卒 三輪開造
石川縣平民 騎兵二等卒 酒井佐太郎
岐阜縣平民 騎兵二等卒 大野隆二

近衞野戰砲兵聯隊

山梨縣平民 砲兵一等卒 佐野今朝吉
群馬縣平民 砲兵一等卒 高橋淸三郎
栃木縣平民 砲兵一等卒 山崎寬
栃木縣平民 砲兵一等卒 吉澤信治
群馬縣平民 砲兵一等卒 鈴塚酉次郎
栃木縣平民 砲兵二等卒 高橋四郎太
長野縣平民 砲兵二等卒 宇都宮勝治
山形縣平民 砲兵二等卒 小松春吉
岐阜縣平民 砲兵二等卒 林角太郎
埼玉縣平民 砲兵一等卒 石田新兵衞
茨城縣平民 砲兵一等卒 坪山豐次郎
群馬縣平民 砲兵二等卒 金子門三郎
長野縣平民 砲兵二等卒 立岩慶三郎
神奈川縣平民 砲兵一等卒 鳥海正作
千葉縣平民 砲兵二等卒 大藤惣平

○軍艦發著　各港灣ニ於ケル軍艦發著左ノ如シ(海軍省)

艦名	月日	著	發	行先
笠置	三、二七	松眞		
磐城	同			
宇治	同二八	尾鷲	上海	舟山島
野分	同		竹敷	佐世保
春雨・皐月	同		小樽	

艦名	月日	著	發	行先
白雲・朝潮	三、二八		小濱	宮津
松江	同		橫須賀	竹敷
叢雲	同		佐世保	

○學事

○敎員檢定試驗成績　敎員檢定委員會ニ於テ昨三十九年八月豫備試驗ヲ施行シ同十一月及本年二月本試驗ヲ施行シタル師範學校中學校高等女學校敎員檢定試驗ノ成績左ノ如シ(文部省)

明治三十九年度 師範學校中學校高等女學校敎員檢定試驗成績

學科	出願者	豫備試驗 缺席者	豫備試驗 出席者	豫備試驗 合格者	本試驗 缺席者	本試驗 出席者	本試驗 合格者	豫備試驗出席者百ニ對スル本試驗合格者
修身	二七四	三四	二四〇	三五	一	三六	三〇	一二・五〇
敎育	一五二	二〇	一三二	二二	—	二四	二〇	一五・一五
國語及漢文	五五八	五七	五〇一	八一	一三	一〇〇	四七	九・三八
英語	三七四	二八	三四六	六五	一	六五	二四	六・九五
歷史(日本史東洋史)	二四八	四六	二〇二	二七	三	二六	一四	六・九三
歷史西洋史	一五五	三四	一二一	二五	—	二五	一〇	八・二六
地理	二二四	二六	一九八	三一	一	三四	二〇	一〇・一〇
數學 算術代數幾何	七五四	一一七	六三七	四六	二	四六	二七	四・二七
數學 三角法	六六	—	—	—	一九	四七	二二	四六・八一
數學 解析幾何	三六	—	—	—	一四	二二	四	一八・一四
數學 微積分	二三	—	—	—	八	一五	四	二六・六七
物理	七一	一三	五八	一三	—	一三	一二	二〇・六八
化學	四四	一三	三一	六	—	六	四	一二・九〇
博物 動物生理及	一四三	二五	一一八	二八	四	三四	一九	一六・一〇
博物 植物	二五二	二八	二二四	五三	—	五四	二四	一〇・七一
博物 鑛物	三二	一〇	二二	五	—	五	四	一八・二七

第7121号　本文

第 7121 号 本文

神奈川 〃		|	|	四	|	一	|	二六	一〇	|	|	|	|
〃		一	|	三	|	五	|	二三	三	|	|	|	|
兵庫 〃		一	一	七	二	|	|	二九	五	|	|	|	|
〃		|	|	三	二	二	一	一六	五	|	|	|	|
長崎 〃		|	|	|	|	二	|	二三	七	|	|	|	|
〃		|	|	六	二	一	一	一七	七	|	|	|	|
新潟 〃		|	|		一	|	|	三	一	|	|	|	|
〃		|	|	一	|	六	三	九四	二〇	|	|	|	|
埼玉 郡		|	|	|	|	二	一	五四	一五	|	|	|	|
〃		|	|	二	二	|	|			|	|	|	|
群馬 市		|	|	|	|	三	一	一二	二	|	|	|	|
郡		|	|	一	|	|	|	二六	九	|	|	|	|
千葉 郡		|	|	一	|	|	|	二九	二一	|	|	|	|
市		一	|							|	|	|	|
茨城 郡		|	|	|	二	△		四一	九	|	|	|	|
〃		|	|	|	|			三一	六	|	|	|	|
栃木 〃	△			|	|	|	|	一四	四	|	|	|	|
〃				一	|	一〇	一	六六	一〇	|	|	|	|
奈良 〃	△			|	|	△		|	|	|	|	|	|
〃				一	一			五	二	|	|	|	|
三重 〃	△			一	|	|	|	四	|	|	|	|	|
〃				二	二	二	一	五	二	|	|	|	|
愛知 〃		|	|	|	|	|	|	六	二	|	|	|	|
〃		|	|	一	|	一	|	一三	四	|	|	|	|
靜岡 〃	△					|	|	四	一	|	|	|	|
〃						三	|	一四	一四	|	|	|	|
山梨 〃		|	|	|	|	|	|	|	|	|	|	|	|
〃		|	|	|	|	|	|	四	一	|	|	|	|
滋賀 〃	△			|	|	|	|	一	|	|	|	|	|
〃				|	|	一	|	七	一	|	|	|	|
岐阜 〃	△			|	|	|	|	五	|	|	|	|	|
〃				三	一	二	一	一六	五	|	|	|	|
長野 〃		|	|	|	|	一	|	三	二	|	|	|	|
〃		|	|	二	|	六	|	五二	八	|	|	|	|
宮城 〃		|	|	|	|	二	|	一	二	|	|	|	|
〃		|	|	|	|	三	|	五二	一三	|	|	|	|
福島 〃	△			|	|	|	|	五	三	|	|	|	|
〃				二	|	二	二	四九	一六	|	|	|	|
岩手 〃	△			|	|	△		一	|	|	|	|	|
〃				|	|			二三	六	|	|	|	|
青森 〃	△			三	一	|	|	七	三	|	|	|	|
〃				|	一	|	|	二五	九	|	|	|	|
山形 〃	△			|	|	三	|	六	四	|	|	|	|
〃				五	二	一	一	七〇	二〇	|	|	|	|
秋田 〃		|	|	|	|	|	|	四	一	|	|	|	|
〃		一	|	一二	一	一	二	六九	一三	|	|	|	|
福井 〃				|	|	△		|	|	|	|	|	|
〃				|	|			|	|	|	|	|	|
石川 〃	△			|	|	一	|	一	|	|	|	|	|
〃				|	|	|	|	一二	三	|	|	|	|
富山 〃		|	|	|	|	|	|	|	|	|	|	|	|
〃		|	|	|	|	|	|	三	|	|	|	|	|
鳥取 〃	△			|	|	|	|	三二	三	|	|	|	|
〃				|	|	一	|	二五	五	|	|	|	|
島根 〃	△			|	|	|	|	二	|	|	|	|	|
〃				一	|	一	|	一五	五	|	|	|	|
岡山 〃		|	|	二	|	|	|	五	二	|	|	|	|
〃		|	|	五	|	三	|	二三	四	|	|	|	|
廣島 〃		|	|	二	|	二	一	一四	六	|	|	|	|
〃		|	|	|	|	|	|	二九	八	|	|	|	|
山口 〃		|	|	|	|	|	|	|	|	|	|	|	|
〃		一	|	二	二	|	|	三五	八	|	|	|	|
和歌山 〃		|	|	|	|	|	|	六	三	|	|	|	|
〃		|	|	|	|	|	|	七	|	|	|	|	|
德島 〃	△			|	|	△		|	|	|	|	|	|
〃				|	|			一	|	|	|	|	|
香川 〃	△			|	|	|	|	|	|	|	|	|	|
〃				|	|	五	一	一一	二	|	|	|	|
愛媛 〃	△			一	二	二	一	一五	六	|	|	|	|
〃				一	|	一	|	二三	七	|	|	|	|
高知 〃	△			|	|	△		三	一	|	|	|	|
〃				|	|			七	一	|	|	|	|
福岡 〃	△			|	|	△		三六	九	|	|	|	|
〃				|	|			一八五	三八	|	|	一	|
大分 郡	△			|	|	一	一	一一	二	|	|	一	|
佐賀 郡		|	|	|	|	|	|	二	一	|	|	|	|
市		|	|	|	|	|	|	七	一	|	|	|	|
熊本 〃		|	|	|	|	四	一	二六	八	|	|	|	|
〃		一	|	四	二	二	三	六七	一九	|	|	|	|
宮崎 郡	△			|	|	|	|	九	一	|	|	|	|
鹿兒島 郡	△			|	|	△		|	|	|	|	|	|
市				|	|			一	|	|	|	|	|
沖繩 郡	△			|	|	|	|	五	一	|	|	|	|
區				|	|	|	|	一	|	|	|	|	|
合計		九	四	一〇三	三二	一〇五	三三	一、九七五	五〇七	|	|	二	|

○雜事

○移民業務代理許可　帝國殖民合資會社業務擔當社員竹內正志ヨリ岡山縣士族岡田虎三郎ヲシテ墨西哥國ニ於テ日本殖民合資會社業務擔當社員鈴木梅四郎ヨリ大分縣平民野依正吉ヲシテ東洋移民合資會社業務擔當社員佐久間鋼三郎ヨリ岡山縣平民渡邊網太ヲシテ各〻內地ニ於テ孰モ業務代理ヲ爲サシムルコトヲ出願セシニ依リ本月二十六日許可セリ(外務省)

○移民取扱出張所廢止　日本殖民合資會社ヨリ福井縣三方郡耳村河原市第十九號ノ八番地出張所ヲ廢止セシ旨本月十八日附ヲ以テ屆出テタリ(外務省)

○移民取扱營業所移轉許可　周防移民合資會社業務擔當社員鈴木德五郎ヨリ出願ノ主タル營業所ヲ兵庫縣神戶市神戶中山手通四丁目百一番地ノ三六ヘ移轉ノ件本月二十五日許可セリ(外務省)

○帝國議會

○衆議院

○請願書送付　昨二十八日參考トシテ左ノ請願書ヲ政府ニ送付セリ

(二八)

軍人恩給法中改正ノ請願	一通
商法中預證券及質入證券ニ關スル規定改正ノ請願	一
靖國神社合祀ノ請願	一
普通選擧ノ請願	二
族籍廢止ノ請願	一

輸入綿花關稅復舊ノ請願	一
府縣制改正ノ請願	一
水道布設延期ノ請願	一
人權保護自治復活ノ請願	一
土地收用認定ノ公告取消ノ請願	一
人權保護ノ請願	一
土地收用認定不認谷中村復活ノ請願	一
失政彈劾ニ關スル請願	一
谷中村買收禁止ノ請願	一
谷中村復活ノ請願	一
戰捷紀念トシテ市町村基本金下賜ノ請願	一二七
鐵道速成ノ請願	一
樟腦業ニ關スル請願	一
國家經濟ノ財源作成ノ請願	一
北海道鐵道國有ニ關スル請願	一
利根川及江戶川浚渫工事進捗ノ請願	一
港灣調査ノ請願	一
曆本及曆表陰曆揭載廢止ノ請願	一
曆本中陰曆併記廢止ノ請願	一
曆書中陰曆併記削除ノ請願	一
狩獵法改正ノ請願	一
內國產煉乳用砂糖ニ關スル請願	一
煉乳事業保護ノ請願	一
電信局設置ノ請願	一
全國三等郵便局ヲ其ノ所在地町村ノ請負事業トナスノ請願	一
青森港灣修築ノ請願	一
地租組換ノ請願	一
郡村宅地ヘ組替ノ請願	一
種牛配布ノ請願	一
在外國賣淫婦取締法制定ノ請願	一
刑法及民法改正ノ請願	四
移民事業ニ關スル請願	一
立竹木ニ關スル登記法制定ノ請願	一
稅法改廢ニ關スル請願	一
渡良瀨川河身改良ノ請願	一
郡役所廢止ノ請願	一
河川改修工事速成ノ請願	一
公益者保護獎勵法制定ノ請願	一
印刷局抄紙部事業擴張廢止ノ請願	一
郵便局設置ノ請願	一
市制實施ノ請願	一
燐寸及軸木法中ニ於テ內地向燐寸業者ニモ補償ヲ與ヘラレタシトノ請願	一
鐵道線路敷設ノ請願	一
煙草專賣法中改正ノ請願	三
畜牛汽車運賃引下ノ請願	一
牛馬賣買營業者取締規則制定ノ請願	一
藥品取締法制定ノ請願	二
藥品營業並藥品取扱規則中改正ノ請願	一
學生生徒乘車賃割引規定改正ノ請願	一
八幡濱區裁判所ニ於テ裁判所事務開始ノ請願	一
支廳及區裁判所位置變更並鐵道延長ノ請願	一
地方裁判所支部再置ノ請願	三
石狩川治水案制定ノ請願	一
郵便局位置移轉ノ請願	一
郵便局設置地移轉ノ請願	一
小學校教員待遇ノ請願	一
藥用吸煙木葉製造ニ關スル請願	一
鷲病豫防法改正ノ請願	一
渡良瀨川河身浚渫ノ請願	一
庄內川改修ノ請願	一
區裁判所管轄變更ノ請願	一
區裁判所出張所設置ノ請願	一
揖斐川支流杭瀨牧田兩川改修ノ請願	一
登記事務管轄裁判所變更ノ請願	一
土地抵當ニ關スル請願	一
公證人規則中改正ノ請願	一
韓滿退去處分全廢ノ請願	一
氷雪營業取締規則中修正ノ請願	一
織物消費稅廢止ノ請願	一
小坂鑛山煙害地田畑宅地山林原野特別地價修正ノ請願	一
京都鐵道買收ニ關スル請願	三
沃度輸出制限及鹽酸加里製造機械貸下ノ請願	一
官紀振肅ノ請願	一
貨客停車場設置ノ請願	一
殉國志士表彰追錄ノ請願	一
賀名生古蹟保存ノ請願	一
直江津開港ノ請願	一
樺太島鰊刺網漁業否認ノ請願	一
御料地下付願ニ關スル請願	一
海老瀨村買收土地回復ノ請願	一
北海道國有鐵道輸送力完備ノ請願	一

(二九)

○在外公館報告

○果物保存法及格羅謨柔皮法　果物保存法及格羅謨柔皮法ニ付キ孟買駐在領事藤田敏郎ヨリ去月二十一日附ヲ以テ左ノ如ク報告アリ(外務省)

果物保存法ノ實驗　印度商務局ハ果樹栽培者ニ告示シテ曰ク英國キュー公園「ジョドレル」化學室ニ於ケル實驗ニ依レハ熟シタル果物ヲ十分間三「ペルセント」(百分ノ三)ノ普通「フォルマリン」液ニ濡ストキハ數週間新鮮ニ保存シ得ヘク同局ノ試驗ニ由レハ「ストローベリー」(和蘭苺)ニ適用セシニ好成績ヲ得林檎ハ三箇月間風味ヲ變セサリシト云ヘリ若シ此方法カ衛生ニ害ナケレハ本邦當業者モ之カ試驗ヲ爲サンコトヲ希望ス

格羅謨柔皮法ノ實驗　マドラス技術學校ニ於テマドラス政廳ノ技師アルフレッド、チヤタートン氏ノ實驗セシ所ニ依レハ生皮ヲ鞣スニ格羅謨(chrome)ヲ用フルトキハ從來ノ單寧ヲ用フルモノヨリ大ニ時間ヲ省キ費用ヲ減シ皮革ヲシテ善良ナラシムト同氏ノ言フ所ニ依レハ格羅謨柔皮ハ長キ使用ニ堪ヘ殊ニ製靴ニ適シ足觸リ柔軟溫マリ又乾クトキモ依然柔軟長ク水ニ濡スモ變化ヲ來サス普通ノ製皮ハ數分間煮ルトキハ全ク溶解スルモノナルニ本柔皮ハ僅ニ損傷ヲ受クルニ過キス本柔皮法ヲ虎、豹、熊、鹿ノ毛皮ニ適用スルニ毛ニ些少ノ傷ヲ與フルコトナシト本法ヲ羊、野羊ニ施セハ十數時間ニシテ鞣シ得牛皮ハ三日間水牛皮ハ七日ヨリ十日間ヲ要シ若シ器械ニテ斷エス攪拌スレハ猶ホ大ニ時日ヲ節約シ得ヘシト云フ

右格羅謨鞣皮法ハ熱帶地方ニ適スルモノヽ由ナレトモ夏時本邦ニ於テ試驗セハ好成績ヲ得將來熟皮ノ輸入ヲ減シ代フルニ廉價ナル生皮ヲ以テスルコトヲ得ヘケン

印度ニ於ケル年々輸出生皮ハ巨額ニ上リ皆英米兩國ニテ鞣皮シ更ニ英米皮革ノ名ヲ以テ各國ニ輸出スルモノナリ若シ此新法カ效用顯著ナリトセハ將來熟皮ノ輸出大ニ增加スヘシト思ハル

印度皮革ノ輸出ハ千九百五、六年度貿易年報ニ述ヘシカ便利ノタメ左ニ再錄セン

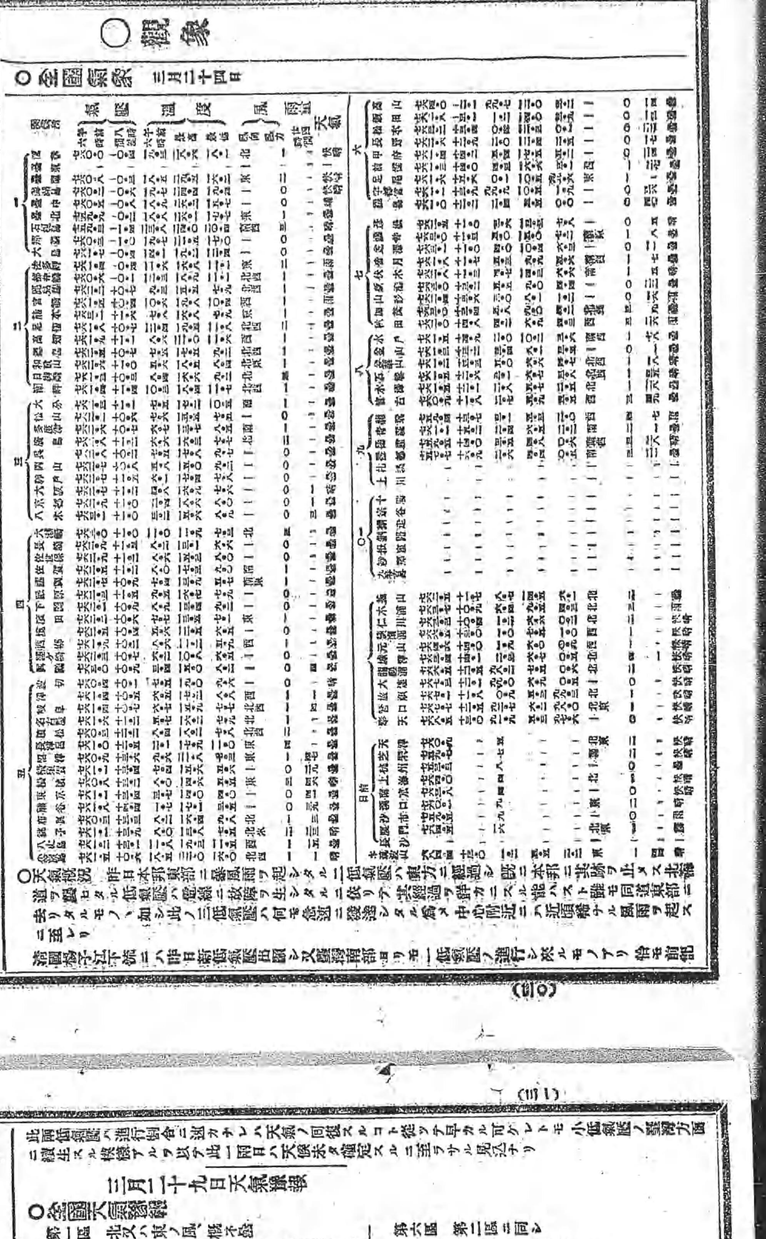
	數	金額
生毛皮	一、五三一、八〇九枚	五二、三三七、九四二「ルピー」
熟毛皮	二〇一、九八二	一五、四八〇、〇七〇
生皮	三一、六七二、一九八	四八、八五〇、九九五
熟皮	一三七、六一三	二〇、九〇二、一三三
合計	四三、五四三、七〇二	一三七、五七一、一四〇

○米國輸入本邦製茶著色ニ關スル件　米國輸入本邦製茶著色ニ關スル件ニ付キ(昨三十九年十二月五日及去月二十日本欄內參看)シカゴ駐在領事清水精三郎ヨリ去月二十二日附ヲ以テ左ノ如ク報告アリ(外務省)

當國新法律純良飲食品取締條例ノ實施ハ本邦輸入製茶ニ關シ如何ナル影響ヲ及スヘキヤニ關シテハ豫ニ報告シ置キ其內ニ製茶ノ著色ニ關シテハ直接右條例ノ支配ヲ受ケサルコトニ決シタレトモ著色

○觀象

○全國氣象　三月二十四日



第7121号　本文

第 7121 号　本文

○購買入札

明治四十年三月二十九日　鐵道作業局計理部

○購買入札公告中訂正

明治四十年三月二十九日　鐵道作業局計理部

○請負入札

明治四十年三月二十九日　北海道鐵道作業局出張所

○購買入札

明治四十年三月二十九日　橫須賀海軍工廠會計部

○入札拂下

明治四十年三月二十九日　第一師團經理部

○工事請負入札

明治四十年三月二十九日　鐵道作業局計理部

○入札拂下

明治四十年三月二十九日　大藏省

○物品賣拂

明治四十年三月二十九日　陸軍被服廠廣島派出所

○物品賣拂

明治四十年三月二十九日　橫須賀海軍工廠會計部

第 7121 号　本文

第7121号　本文

第7121号　本文

第7121号 本文

○除權判決

群馬縣前橋市神明町七號宅舍
申立人 關口本三郎
東京市牛込區原町三丁目十六番地
被申立人 金子惠迪

右當事者間ノ明治三十九年(ヘ)第一號公示催告申立事件ニ付被申立人ニ對シ福島縣石城郡田人村大字黒田小字古屋敷、高內、別當、大澤民有地山林田畑四万六千八百五十四坪農商務省特許第五八七〇號石炭採掘權ノ共同鑛業權名義脱退ノ諾否ヲ明治四十年三月二十五日午前九時迄ニ屆出ヘキ旨處規ノ公告ヲ爲シタル處右期日迄ニ當裁判所ニ共同鑛業權名義脱退ノ諾否ノ屆出ヲ爲サヽルニヨリ申立代理人ノ申立ニ基キ申立人ハ前記共同鑛業權名義ヨリ脱退シタルモノトス

明治四十年三月二十五日

平區裁判所
判事 佐藤鐵六

○東京郵便局外國郵便締切時限

今二十九日神戸マテ汽車便送同地ヨリ「モンゴリア」號ヲ以テ上海經由印度、香港以遠ヘノ郵便物ハ左記ノ時刻ニ締切ル

	東京局	市內各局
普通	二十九日午後九時半	二十九日午後六時半
書留	同上	同上
香港小包	同日午後九時	同上
香港爲替	同日午後四時	同日午後一時

同日横濱マテ汽車便送同地ヨリ「アラゴニア」號ヲ以テポートランド經由歐米以遠ヘノ郵便物ハ左記ノ時刻ニ締切ル

	東京局	市內各局	横濱局
普通	二十九日午後零時半	二十九日午前九時半	二十九日午後二時半
書留	同日正午十二時	同上	同上

明三十日神戸マテ汽車便送同地ヨリ「ジーテン」號ヲ以テ上海經由歐洲、印度海峽殖民地香港以遠ヘノ郵便物ハ左記ノ時刻ニ締切ル

	東京局	市內各局
普通	三十日午後九時半	三十日午後六時
書留	同上	同上
價格表記	同上	同上
小包	同日午後七時半	同日午後五時半
香港爲替	同日午後四時	同日正午十二時

(備考) 小包ハ埃及、歐洲及北米合衆國等宛

明後三十一日神戸マテ汽車便送同地ヨリ「チャンシヤ」號ヲ以テ濠洲、印度、香港以遠ヘノ郵便物ハ左記ノ時刻ニ締切ル

	東京局	市內各局
普通	三十一日午後七時半	三十一日午後五時半
書留	同上	同上
價格表記	同日午後七時	同上
香港小包	同上	同上
香港爲替	同日正午十二時	同日午前九時

○同上締切豫告

上海、香港、印度、濠洲地方ヘハ毎週數回ノ差立アルニ依リ臨時差出サルヽ方速達ヲ得ラルヘシ

○日本郵船株式會社汽船横濱出發表

旺洋丸 今二十九日正午十二時横濱出帆仁川、大連、大沽、牛莊行(四日市、神戸、門司經由)(出帆日延)
三河丸 同日午後四時横濱出帆神戸行(出帆日延)
淡路丸 同日午後四時横濱出帆大阪行
山城丸 明三十日午後四時横濱出帆四月三日午前十時神戸出帆上海行(神戸、門司、長崎經由)横濱、
越後丸 明後三十一日正午十二時横濱出帆半田、四日市行(船客ヲ搭載セス)
廣島丸 同日午後四時横濱出帆神戸行
松山丸 四月一日未明横濱出帆荻ノ濱、函館、小樽行
伊豫丸(歐洲行) 同三日正午十二時横濱出帆同六日午前十一時神戸出帆門司、上海、香港、新嘉坡、彼南、コロンボ、蘇士、坡西土、馬耳塞、倫敦、安土府行(横濱棧橋繋留)
大連丸 同日正午十二時横濱出帆四日市、神戸行
三池丸 同四日未明横濱出帆荻ノ濱、函館、小樽行
春日丸 同日午前十時横濱出帆同六日午前十時神戸出帆上海行(神戸、門司、長崎經由)(横濱、神戸棧橋繋留)
上川丸 同五日午前十時横濱出帆函館行
神幸丸 同日午後四時横濱出帆神戸、門司、基隆、安平、打狗行(船客ヲ搭載セス)
加賀丸 同八日午前十時横濱出帆同十二日午前十時神戸出帆香港行(神戸、門司、上海經由) 横濱棧橋繋留
讃岐丸(歐洲行) 同十七日正午十二時横濱出帆同二十日午前十一時神戸出帆門司、上海、香港、新嘉坡、彼南、コロンボ、蘇士、坡西土、馬耳塞、倫敦、安土府行(横濱棧橋繋留)

○同上神戸等出發表

丹後丸(米國行) 明三十日正午十二時神戸出帆 四月三日 午後二時横濱出帆ビクトリア、シアトル行(横濱棧橋繋留)
右兩地ニ於テ桑港、タコマ、ポートランド、バンクーバー、紐育其他合衆國及歐洲各地行汽車、汽船ニ接續スルニ付キ各地行通船客切符及通船貨物證券ヲ發行ス(米國行三等乘船申込ハ出帆當日三日前迄トス)
横濱丸 四月二日午後二時神戸出帆大連行(宇品、門司經由)
熊本丸 同三日頃午後三時敦賀出帆境行
芝罘丸 同四日午前十時神戸出帆芝罘、大沽、牛莊行(門司、長崎經由)
淡路丸 同五日午前十時神戸出帆安東縣行(宇品、門司、仁川、鎭南浦經由)
錫蘭丸 同日午前十時神戸出帆孟買行(門司、香港、新嘉坡、彼南、マドラス、古倫母經由)
日英丸 同日午後四時神戸出帆尾道、門司、境、敦賀、伏木、新潟、酒田、土崎、函館、小樽行
上川丸 同十日午前八時函館出帆同十一日午後小樽出帆九春古丹、哥爾薩港、マウカ行
營口丸 同十一日午前十時神戸出帆芝罘、大沽、牛莊行(門司經由)
第一「オハヨ」號 同十二日正午十二時神戸出帆安東縣行(門司、釜山、木浦、仁川、鎭南浦經由)

臺灣航路		神戸發正午	門司着發	基隆著
西京丸	毎月	三日	四日	七日
		十八日	十九日	二十二日

本船ハ神戸ニテ鐵道棧橋繋留ニ付キ同所ニテ切符購入御乘船ノ便アリ

	靑森發	函館發	室蘭著
毎日	午後十時半	翌日午前八時	午後三時
	午前四時	函館止メ (直航)	午後四時

○大阪商船株式會社及大家商船合資會社汽船神戸等出發表

韓國行

千賀丸 四月一日午前十時大阪出帆同日午後三時神戸出帆門司、下關、釜山、木浦、群山、仁川行
隅田川丸 同二日午前十時大阪出帆同日午後三時神戸出帆門司、下關、釜山、元山行

清國行

天草丸 明三十日正午十二時大阪出帆明後三十一日午前十時神戸出帆門司、大連行(大連ハ大棧橋ニ繋留ス)
京城丸 四月二日午後三時大阪出帆神戸、下關、門司、仁川、鎭南浦、安東縣行
鐵嶺丸 同日正午十二時大阪出帆同五日午前十時神戸出帆門司、大連行(大連ハ大棧橋ニ繋留ス)
温州丸 同三日午前九時大阪出帆同四日午前十時神戸出帆門司、芝罘、天津行(天津ハ居留地河岸ニ横付(船客ヲ搭載セス)
開城丸 同六日正午十二時大阪出帆同七日午前十時神戸出帆門司、大連行(大連ハ大棧橋ニ繋留ス)
大智丸 同九日午前九時大阪出帆同十日午前十時神戸出帆門司、芝罘、天津行(天津ハ居留地河岸ニ横付
大信丸 同十五日午前九時大阪出帆同十六日午前十時神戸出帆門司、芝罘、天津行(天津ハ居留地河岸ニ横付)

臺灣行

恒春丸 明三十日正午十二時神戸出帆門司、基隆行
吉生丸 四月一日神戸出帆勝浦、門司、基隆、安平、打狗行(船客ヲ搭載セス)
臺中丸 同日午後三時横濱出帆同四日正午十二時神戸出帆宇品、門司、長崎、基隆、澎湖島、安平、打狗行

韓國淸國臺灣沖繩行船客ニシテ大阪又ハ神戸ヨリ御乘船ノ方ニハ東京横濱代理店竝ニ兩市內出札所ニテ乘船切符發賣ス

○號外 昨二十八日發刊帝國議會閉會式勅語一頁●貴族院議事速記錄第十九號三十二頁●衆議院議事速記錄第二十三號十六頁